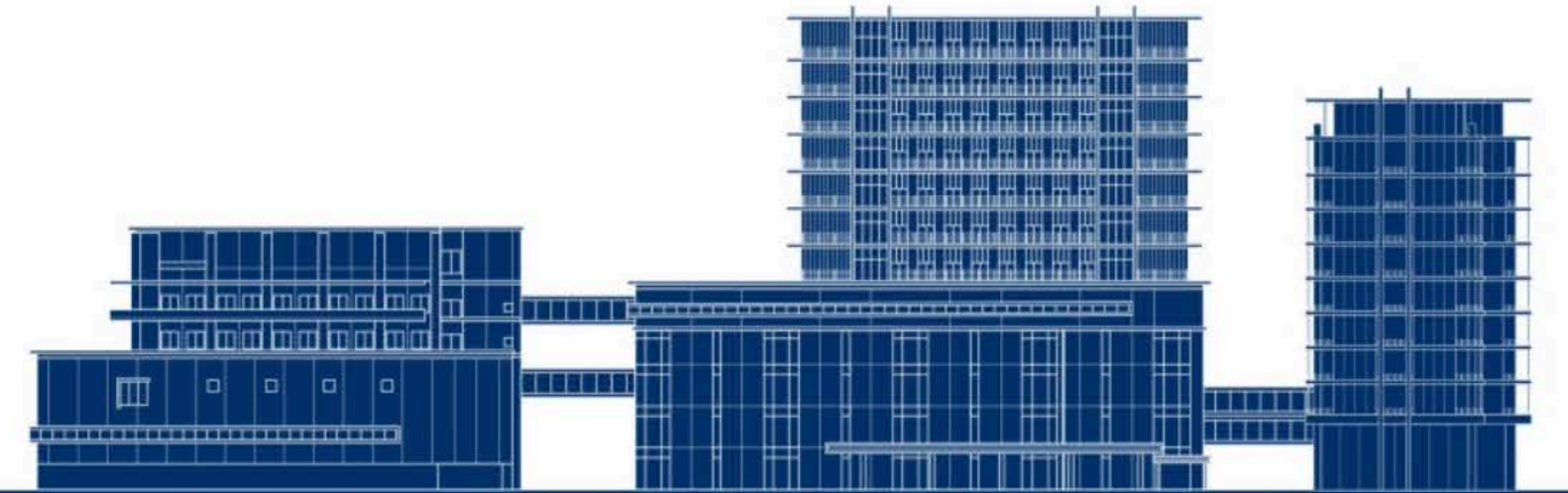




第16回神奈川県合同輸血療法委員会

COVID-19が輸血医療に及ぼした影響



OMPU

大阪医科薬科大学病院

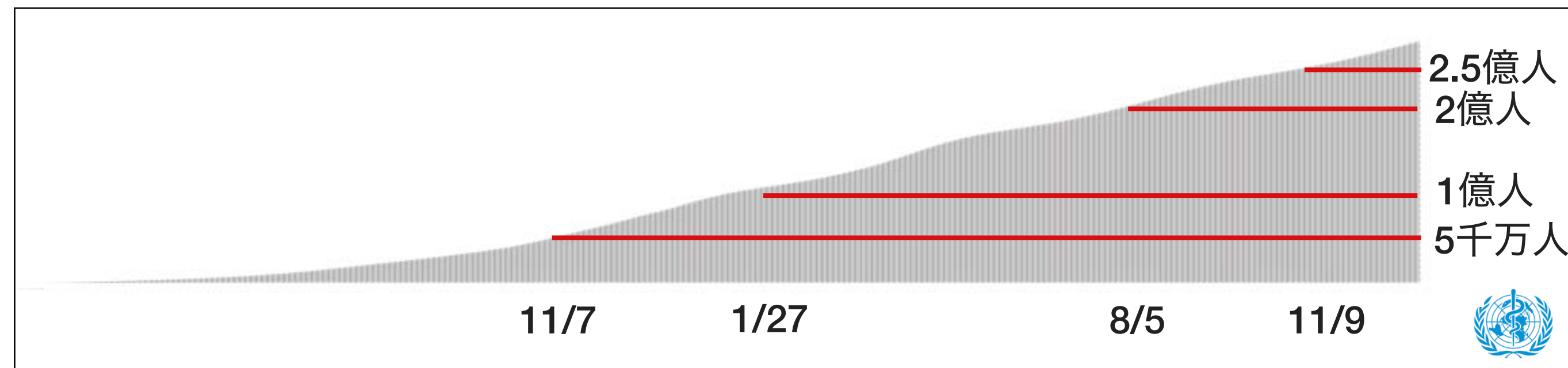
Osaka Medical and Pharmaceutical University Hospital

輸血室 河野武弘



COVID-19 coronavirus infectious disease 2019

- 2019年12月、中国 武漢で原因不明の肺炎
- WHO 新型コロナウイルスを確認 (2020.1.6)
- WHO 「国際的な緊急事態」を宣言 (2020.1.30)
- WHO 新型コロナをCOVID-19と命名 (2020.2.11)
- ICTV 原因ウイルスをSARS-CoV-2と命名 (2020.2)
severe acute respiratory syndrome coronavirus 2
- WHO 「COVID-19はパンデミック」 (2020.3.11)

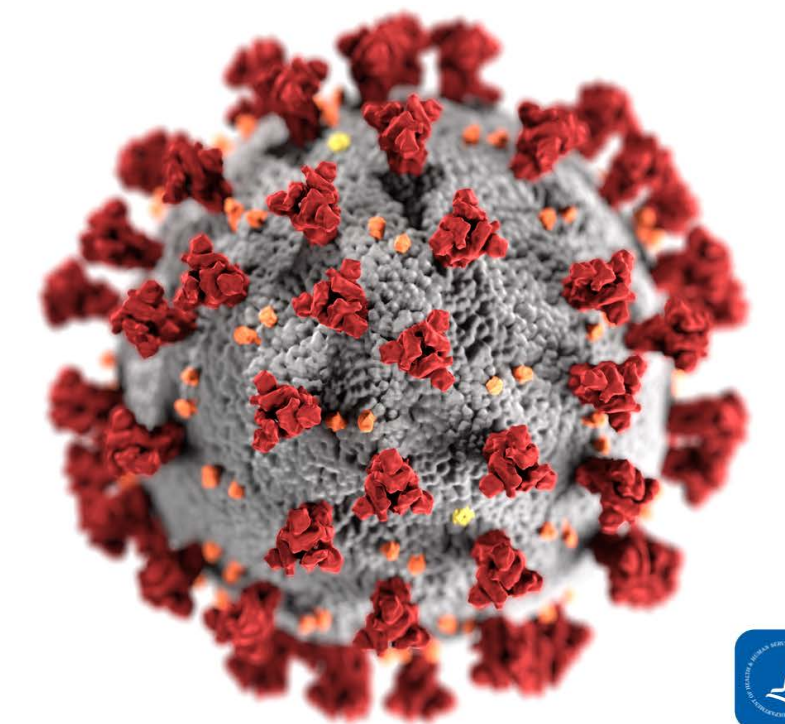


276,436,619
confirmed cases

5,374,744
deaths

8,649,057,088
vaccine doses administered

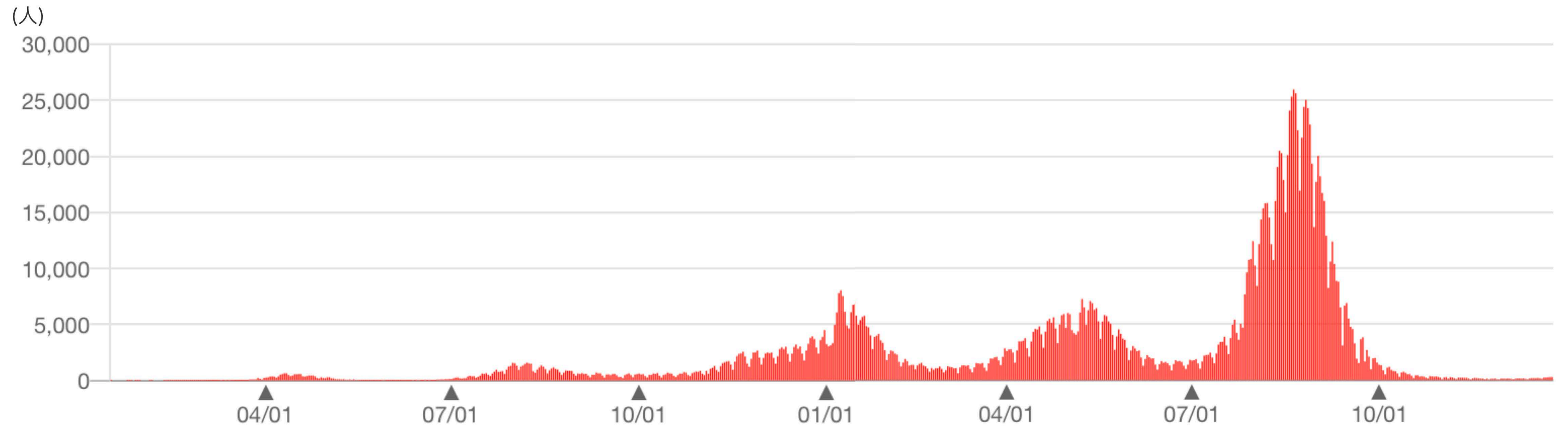
 2021年12月23日現在





COVID-19 国内発生状況 (2021.12.26)

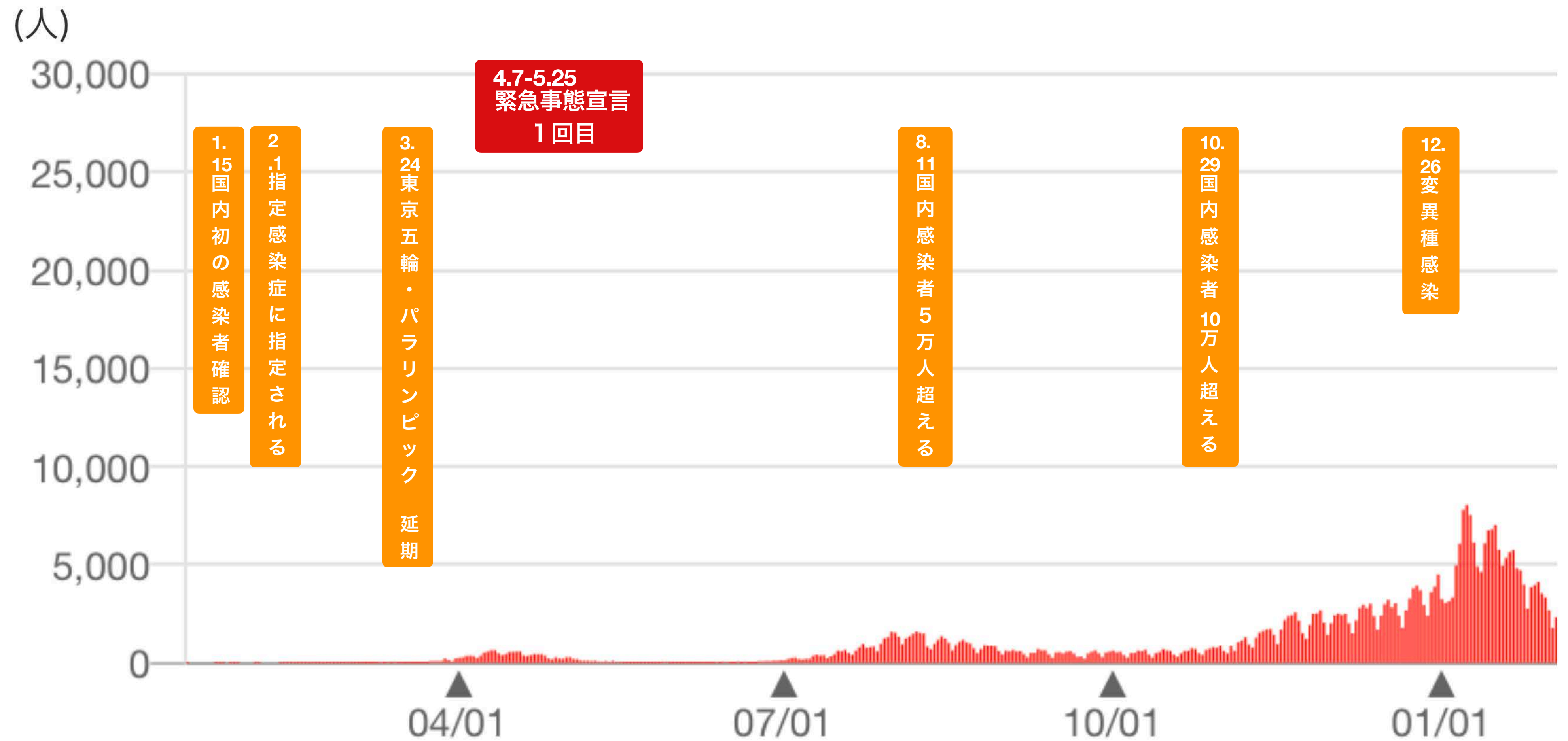
- 感染者（累計）1,731,515人
- 死亡者（累計）18,387人



<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

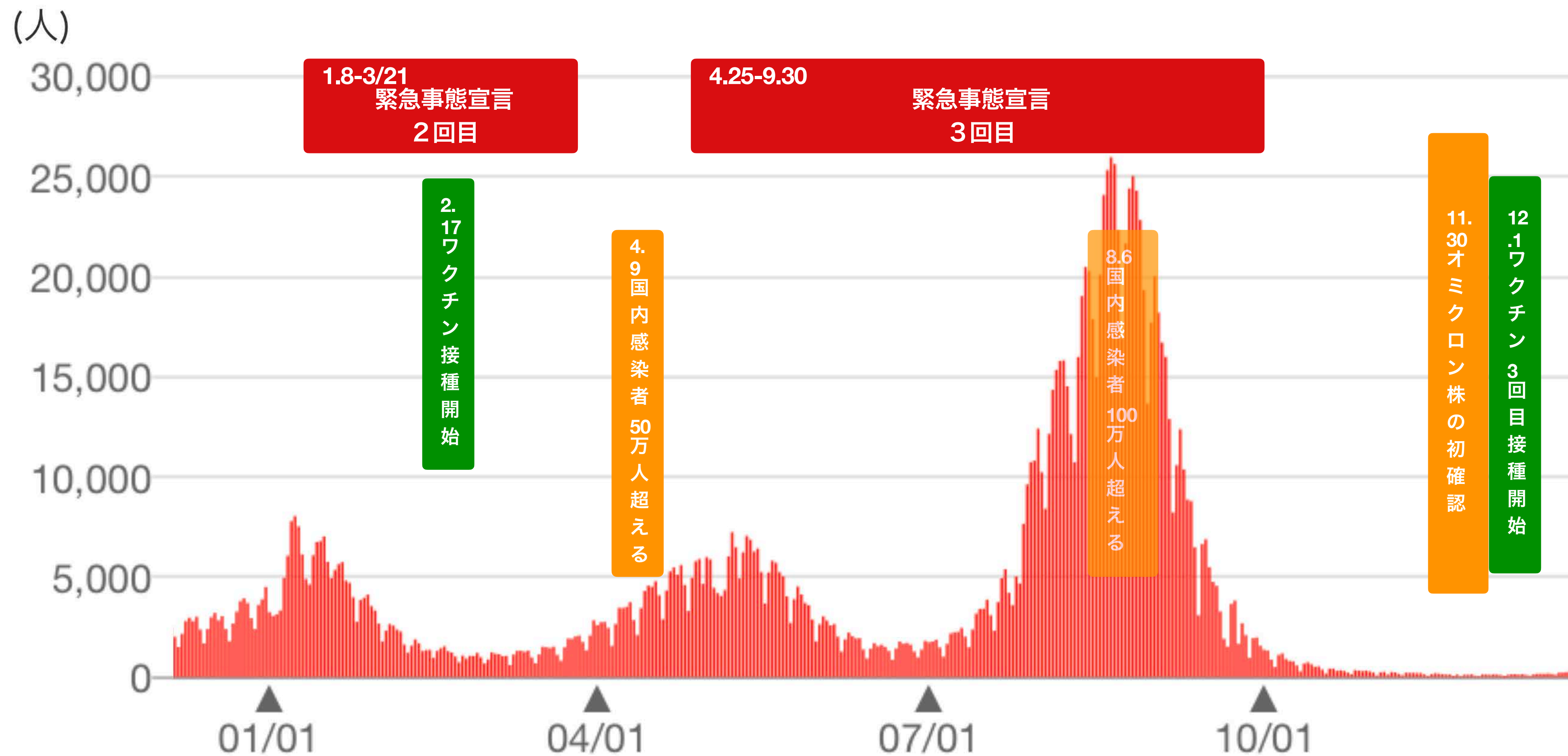


COVID-19 国内の動向 (2020)



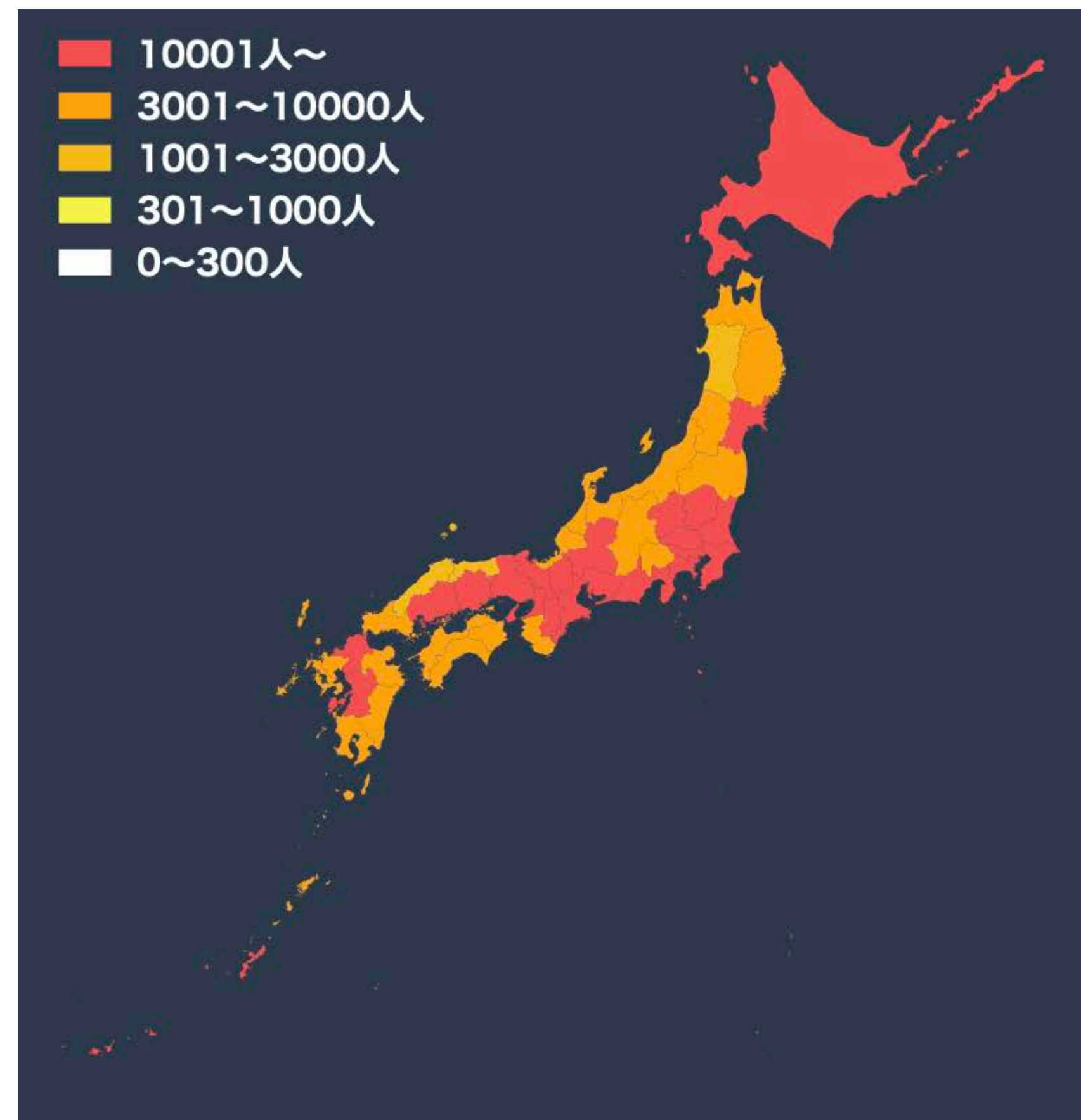
<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

COVID-19 国内の動向 (2021)



<https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html>

都道府県別累積の陽性者 (2021.12.24)



東京都	382718
大阪府	203485
神奈川県	169658
埼玉県	116013
愛知県	106714
千葉県	100628
兵庫県	78805
福岡県	74751
北海道	61347
沖縄県	50457

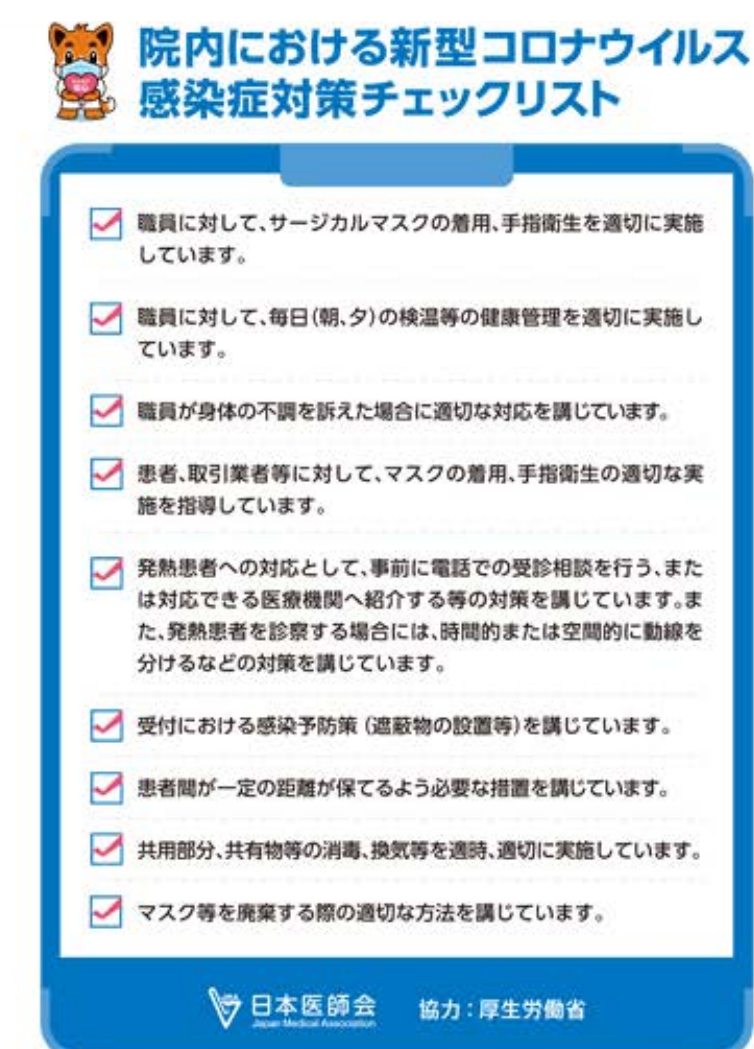
<https://corona.go.jp/dashboard/>

COVID-19 医療機関における感染対策

- 新型コロナウイルス感染症に対する感染管理
(国立感染症研究所 国立国際医療研究センター
国際感染症センター)
- 新型コロナウイルス感染症対策 医療機関向けガイドライン (日本医師会)
- 医療機関における新型コロナウイルス感染症への対応ガイド (日本環境感染学会)
- 日本感染症学会からの各種通知



「みんなで安心マーク」
はじめました



COVID-19 医療機関における感染対策

患者診療時の感染対策

- ユニバーサルマスキング
- 標準予防策の徹底 PPE着用と手指衛生
- 感染経路別予防策 飛沫予防策と接触予防策



市中や医療従事者間での感染対策

- 日常生活にて3密など高リスクな環境を回避
- 医療者控室にて3密回避
- 集団で食事をする際のリスク認識
- 自身の健康管理徹底、有症状時は非出勤にて職場管理者と相談
- ワークスタイルの検討



当院輸血部門におけるCOVID-19感染対策

実施できたこと

- ユニバーサルマスクングと手指衛生の徹底
- スタッフルームでの3密回避（昼食時）
- 自身の健康管理徹底、室長への相談励行
- 朝礼時の声掛け
- 職務代行の設定

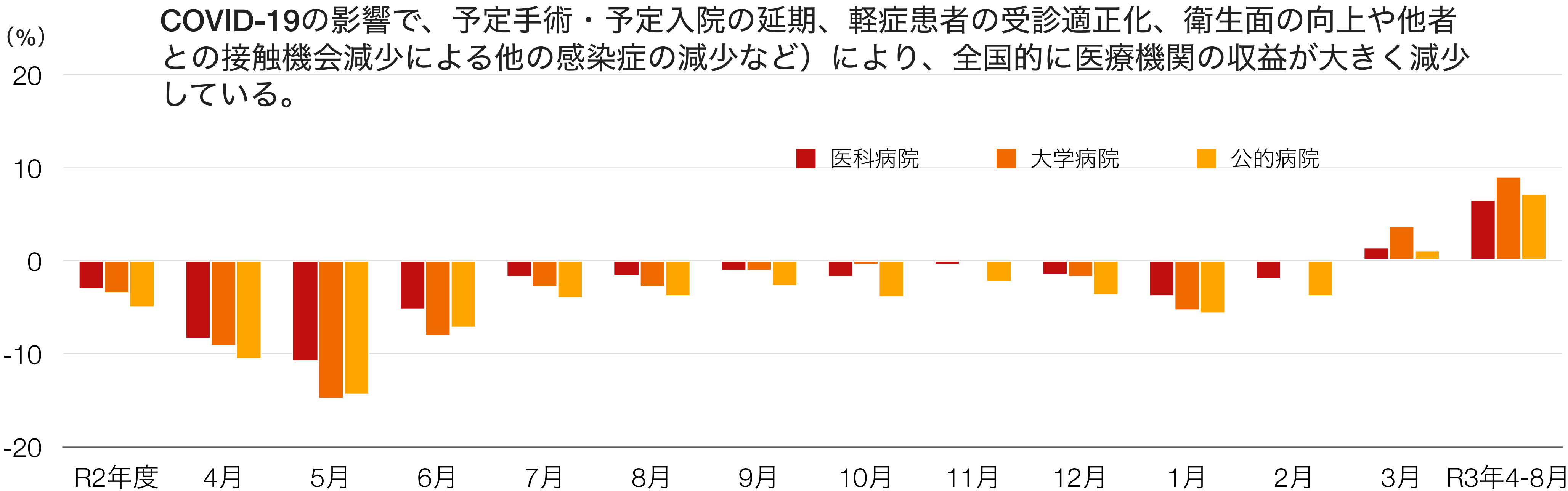
検討したこと

- 「新型コロナウイルス感染症拡大防止に対応した働き方の試み（総務省行政管理局）」などを参考にしたが。。。。
- チーム制・交代勤務制（万が一感染者が発生した際に備えて）→実施できず
- シフト勤務→一部実施（早出、早退など）



COVID-19がわが国の医療に及ぼした影響

1施設当たり医療費の伸び率（休日数等の影響補正後・対前年同期比）

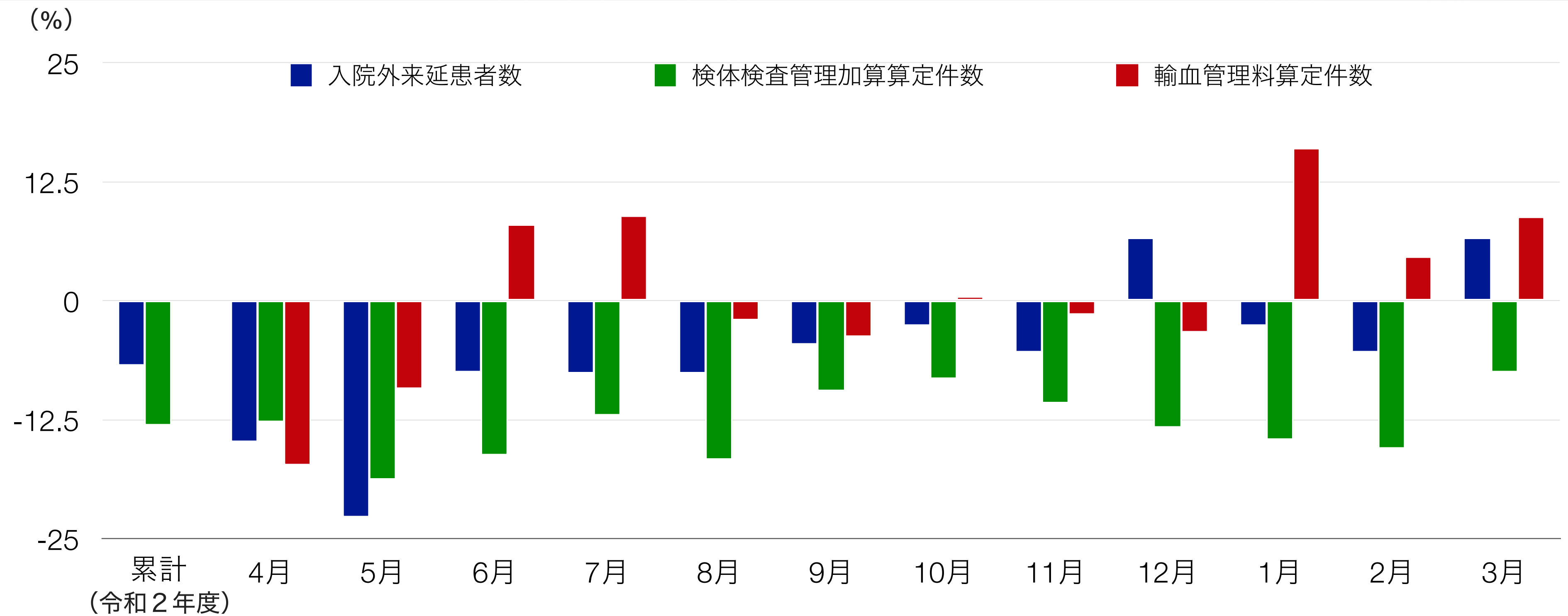


(厚生労働省 最近の医療費の動向-MEDIAS-より作成)



COVID-19が当院の医療に及ぼした影響

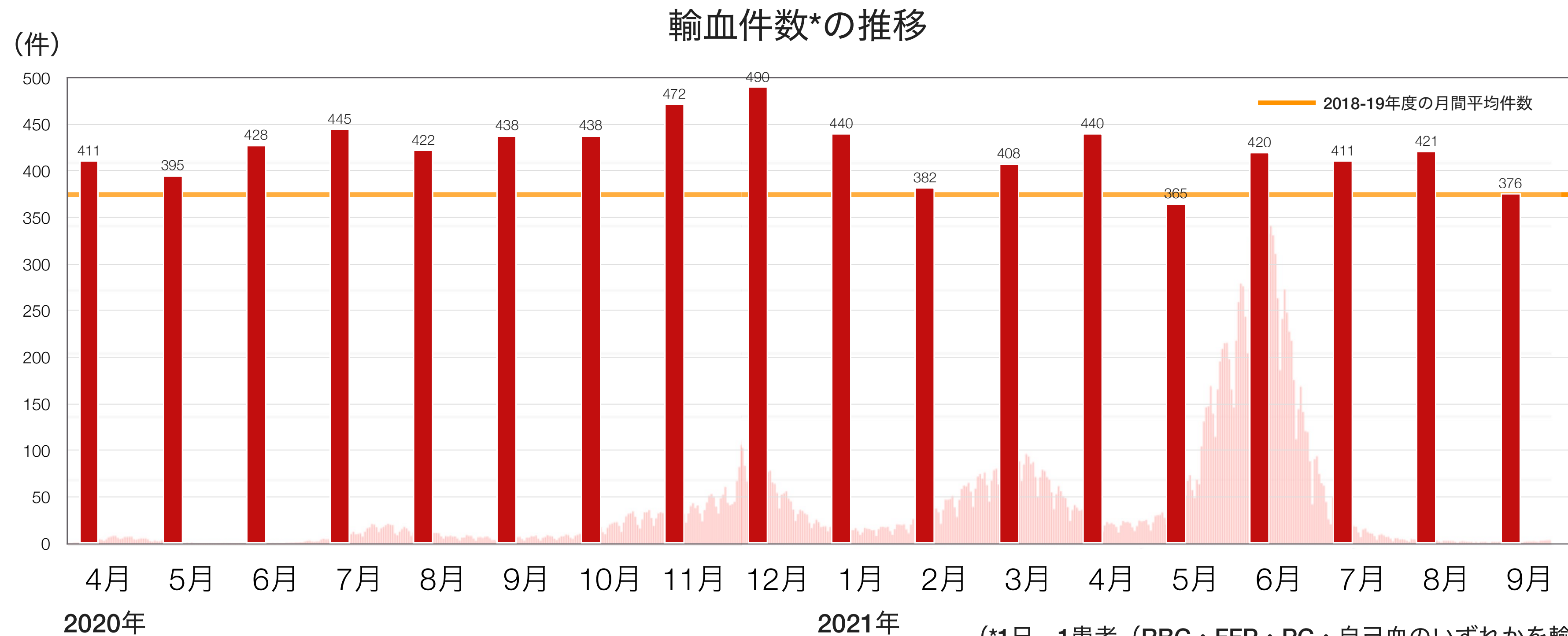
入院外来延患者数、検体検査管理加算算定件数、輸血管理料算定件数（対前年同期比）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～輸血実施



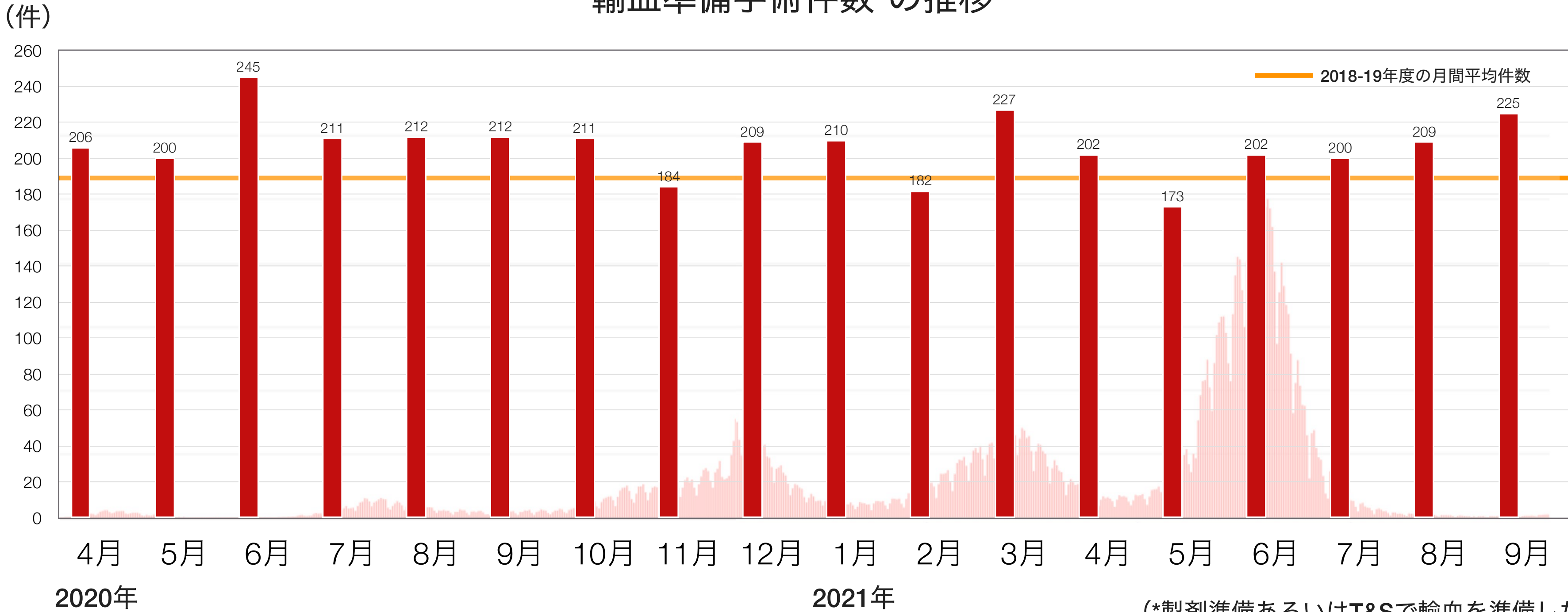
(*1日、1患者 (RBC・FFP・PC・自己血のいずれかを輸血) を1件)



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～手術症例

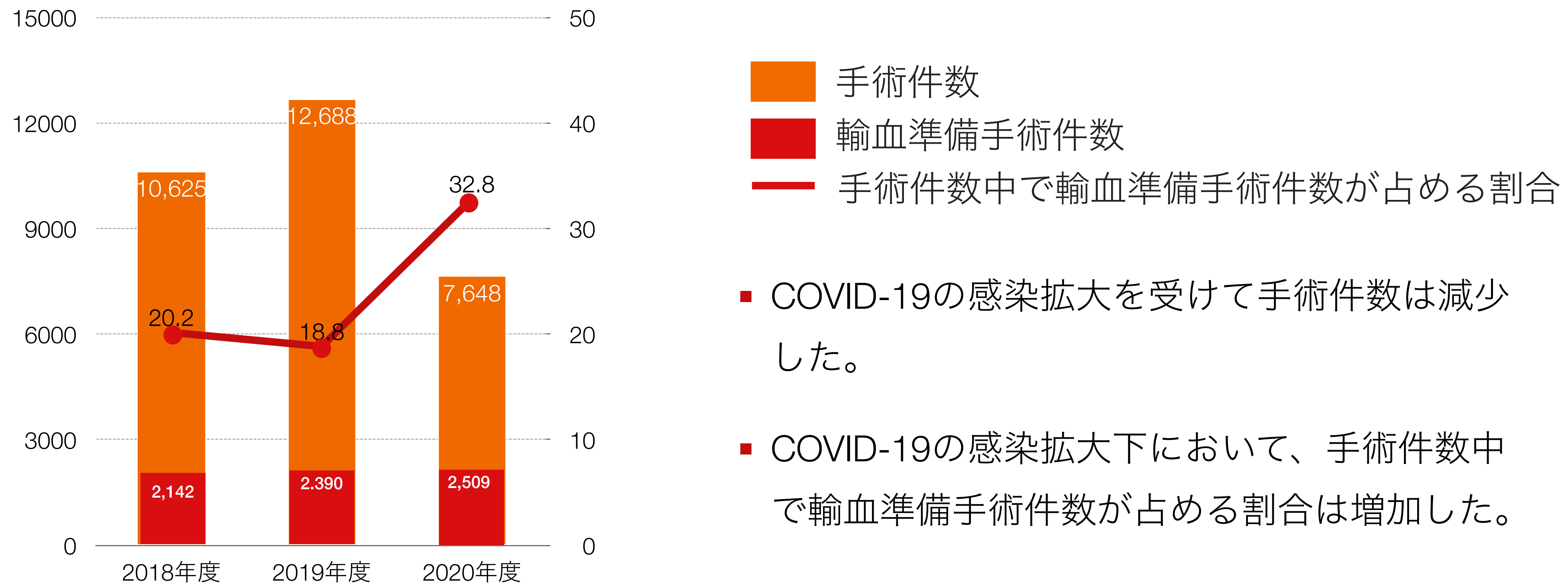
輸血準備手術件数*の推移



(*製剤準備あるいはT&Sで輸血を準備した手術件数)

COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

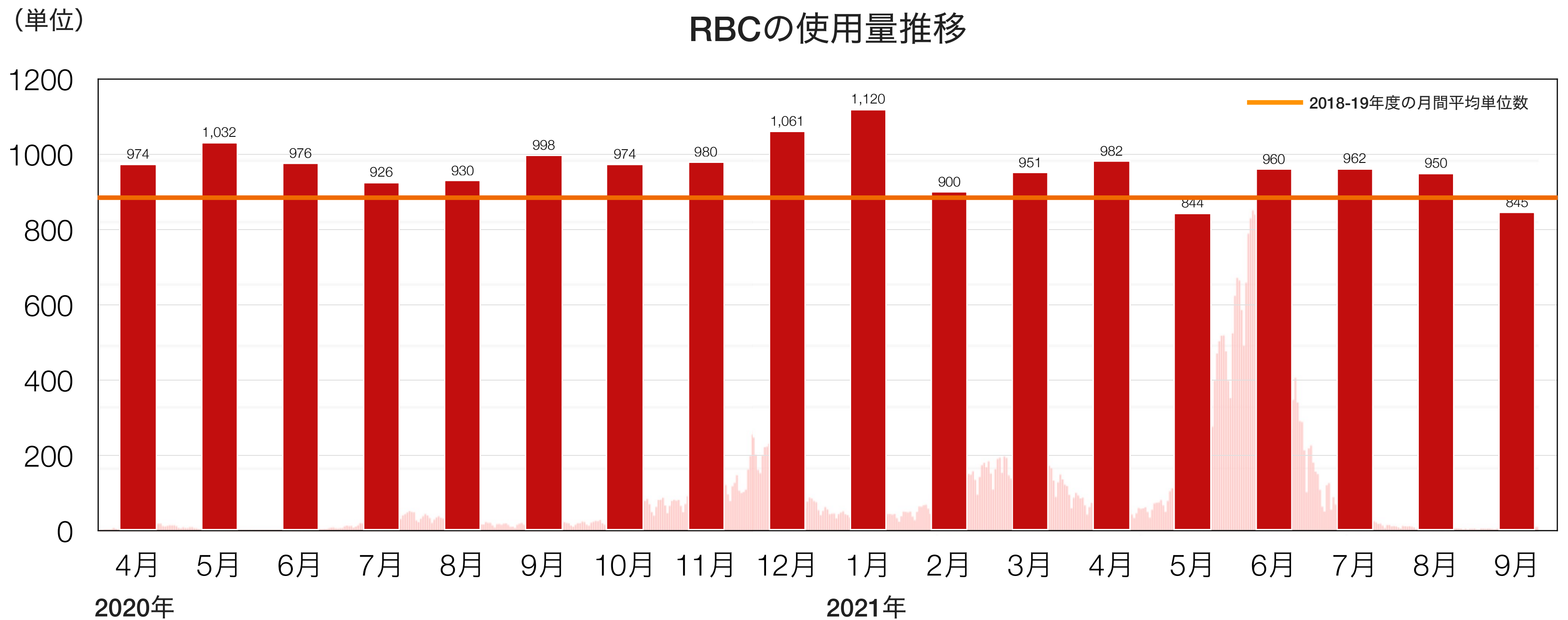
～手術症例における輸血準備





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

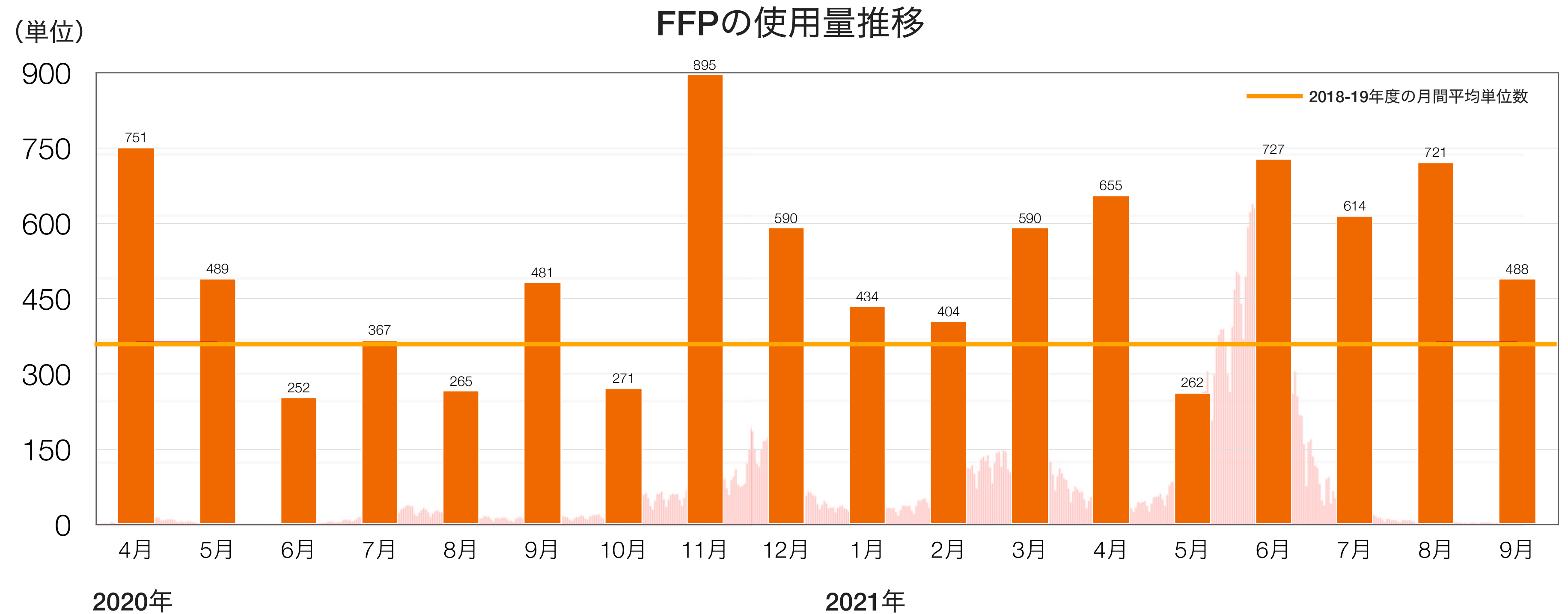
各製剤の使用量推移 (2018-19年度平均との比較)





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

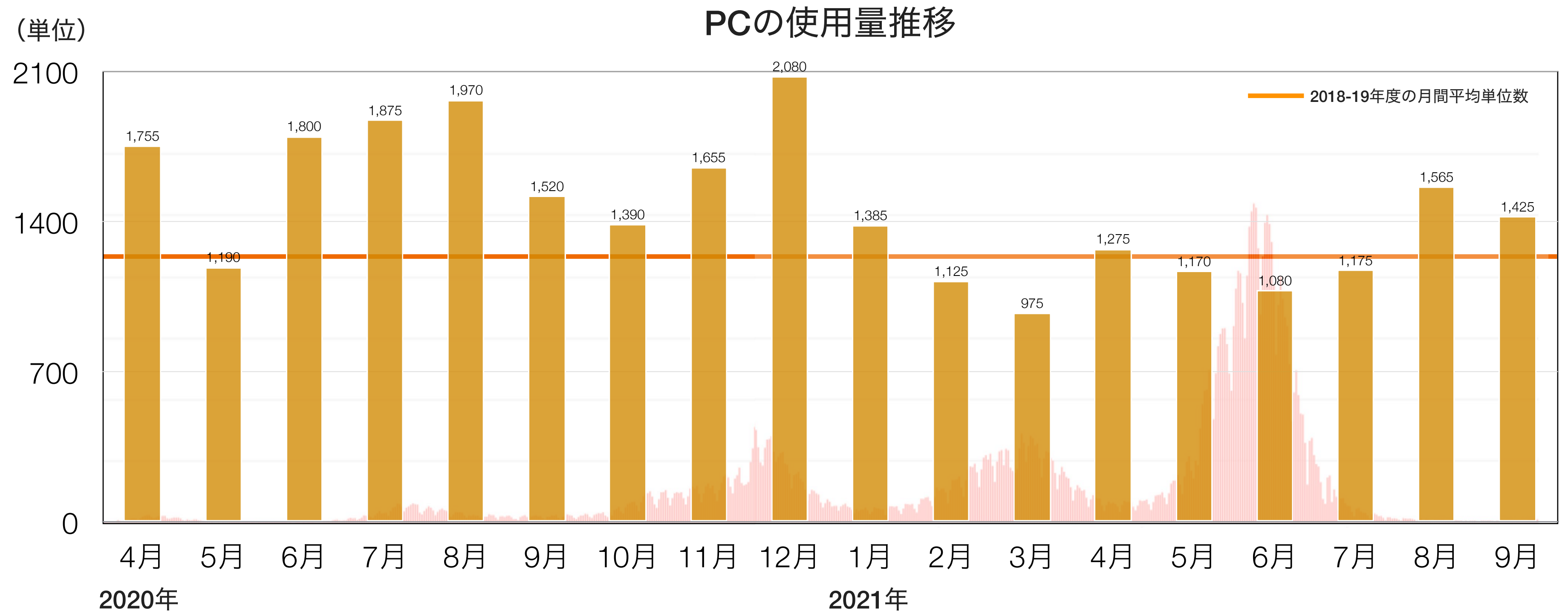
各製剤の使用量推移（2018-19年度平均との比較）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

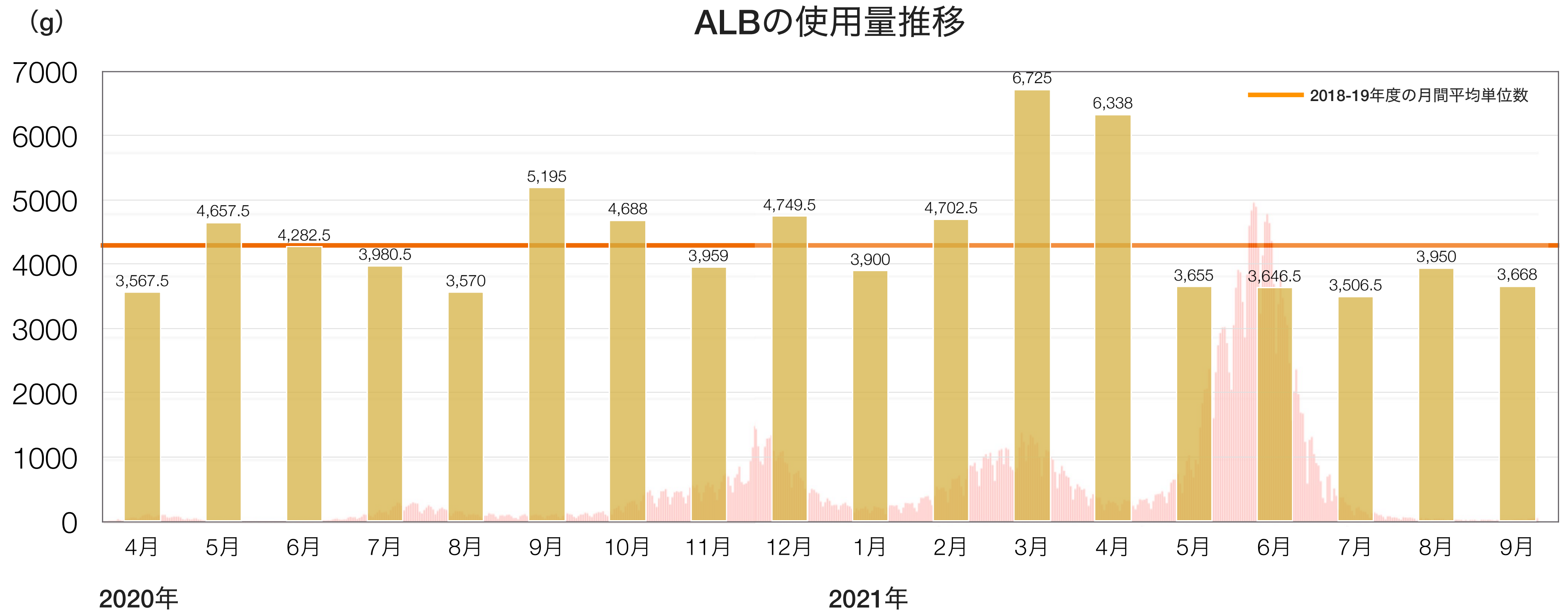
各製剤の使用量推移（2018-19年度平均との比較）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

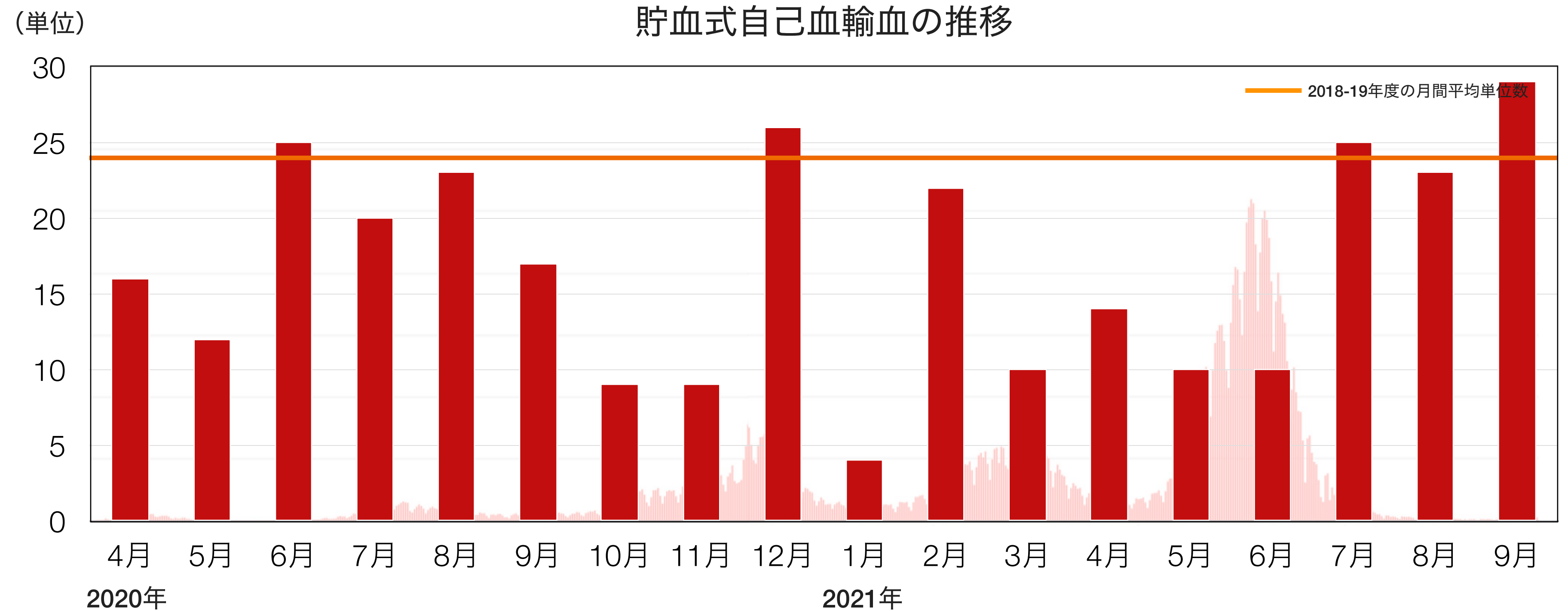
各製剤の使用量推移（2018-19年度平均との比較）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

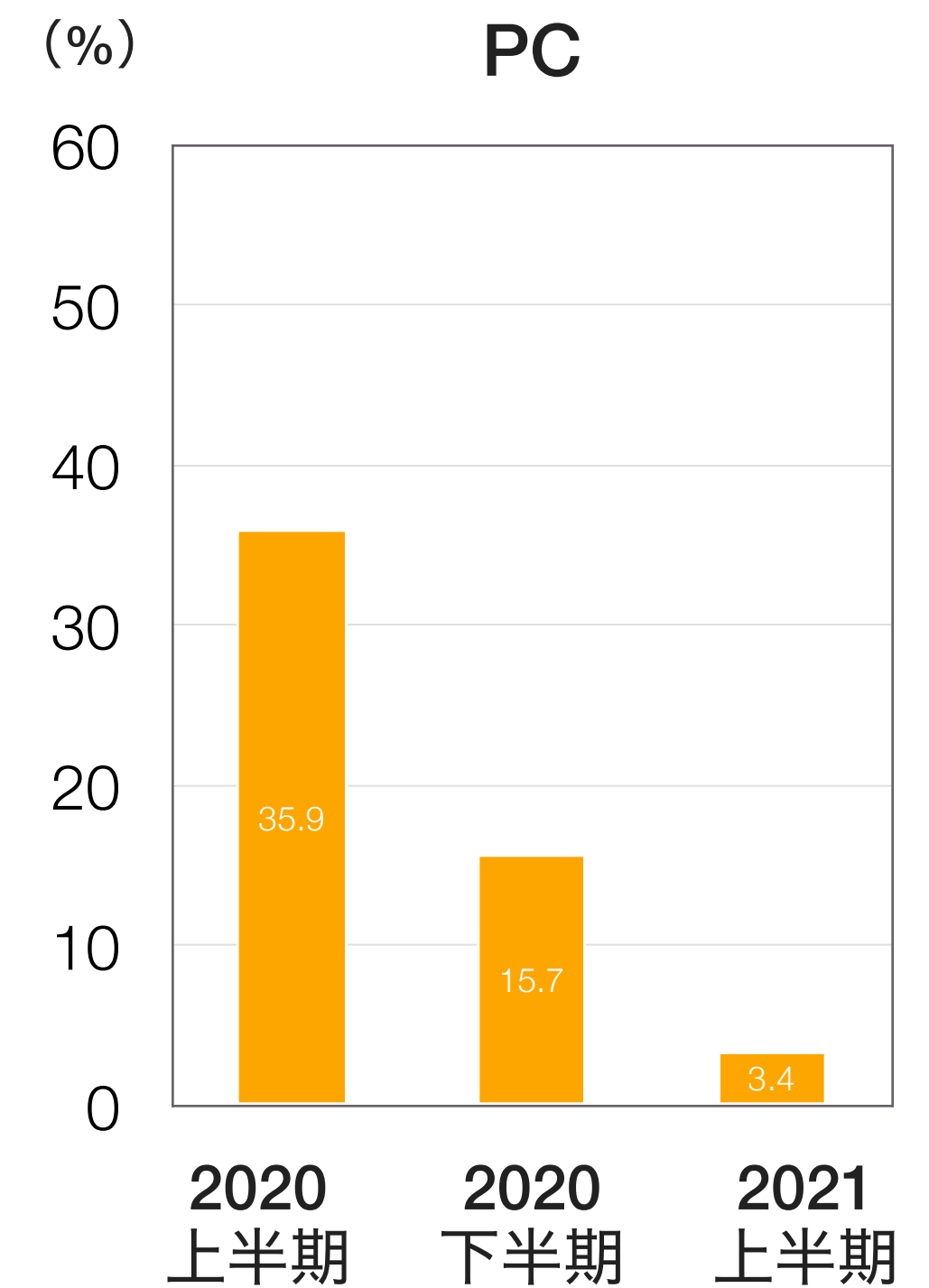
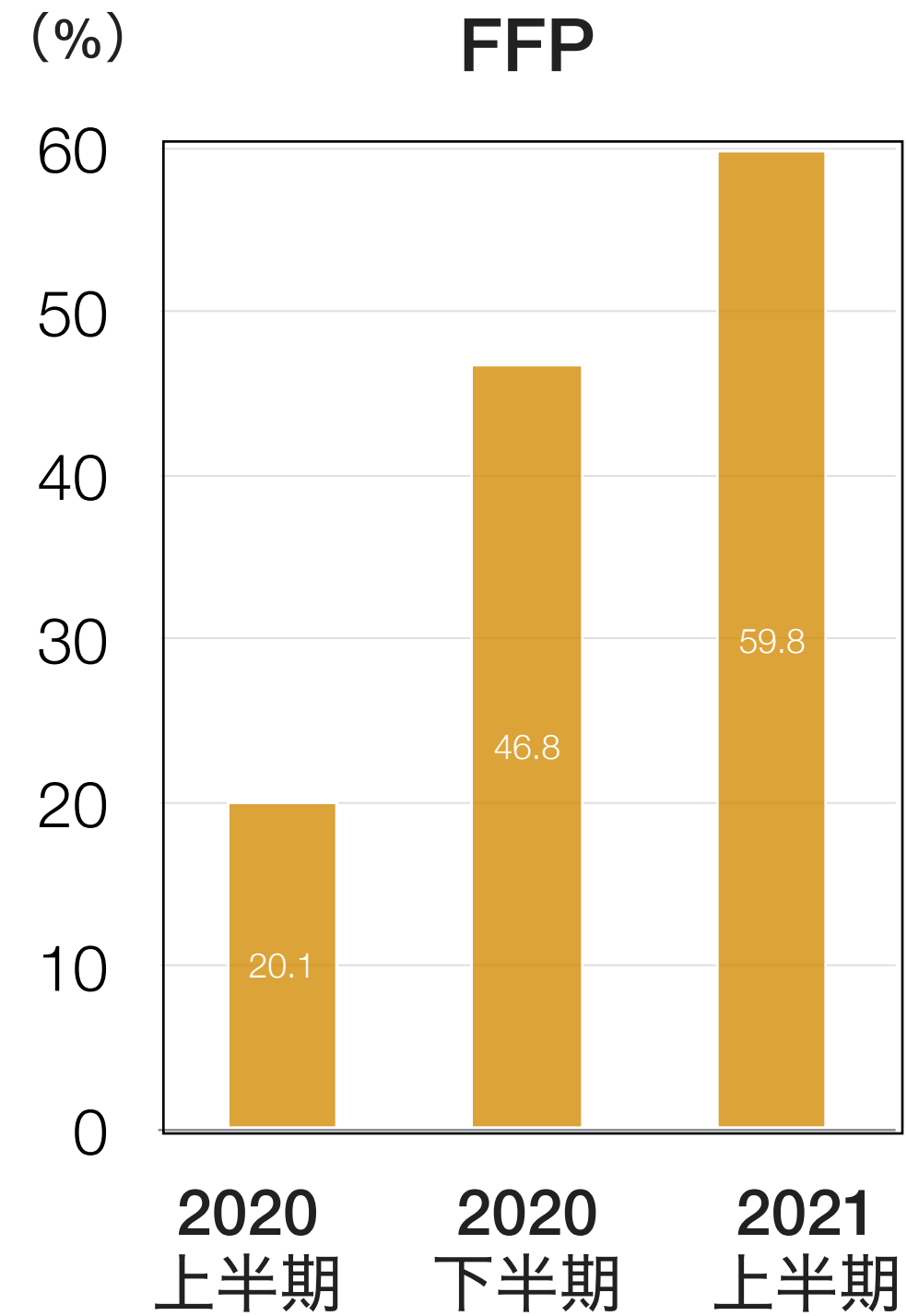
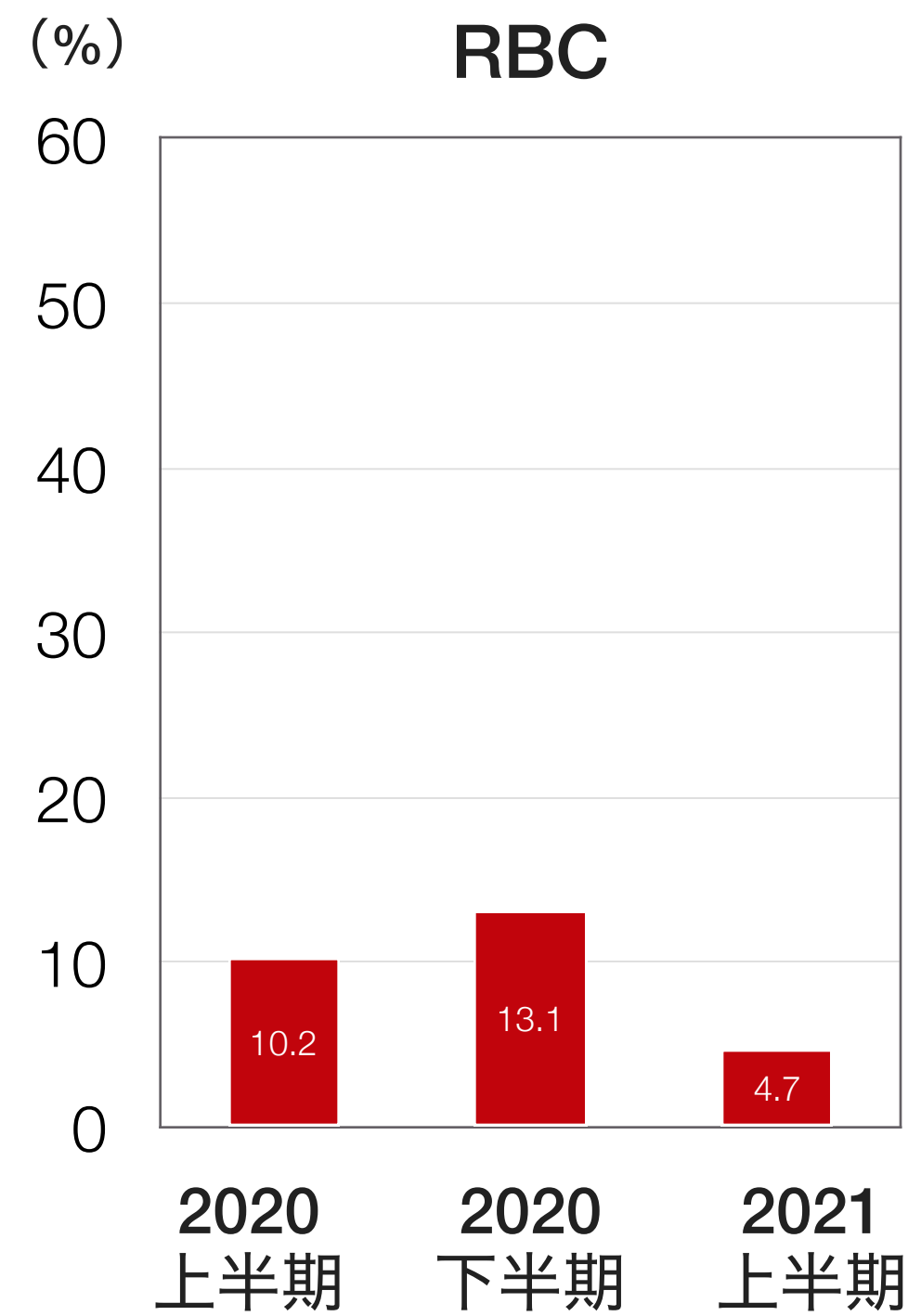
各製剤の使用量推移（2018-19年度平均との比較）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

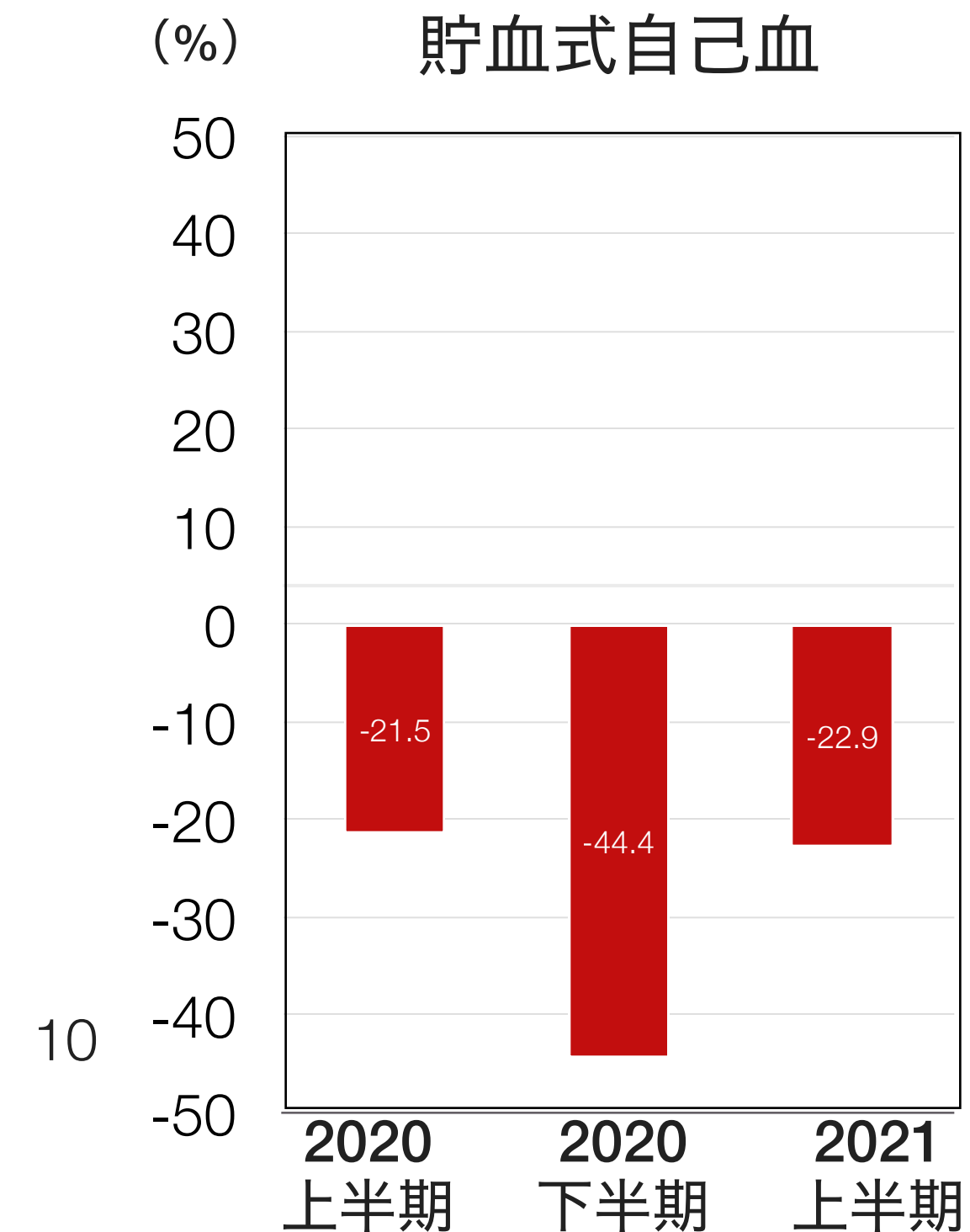
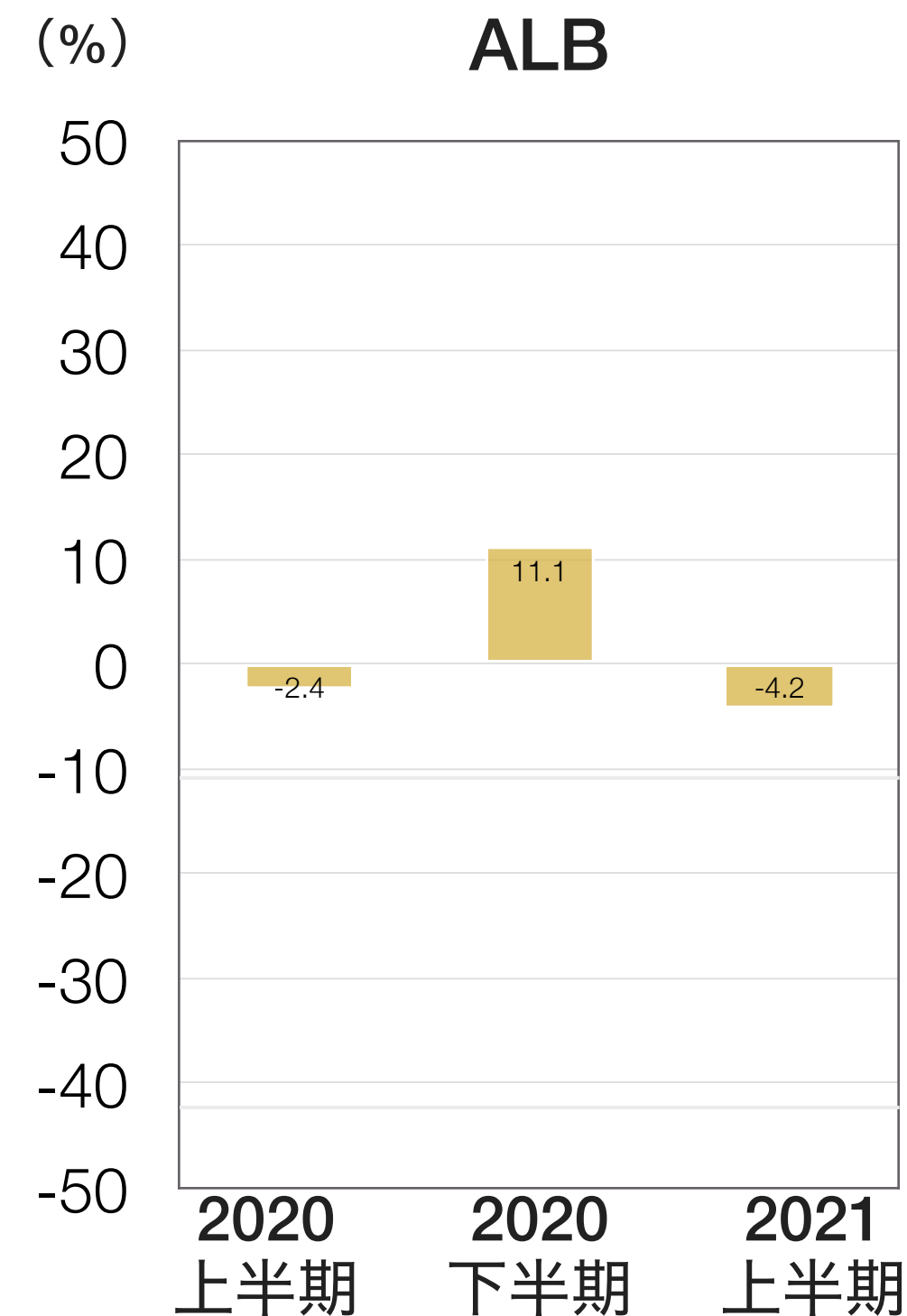
各製剤の使用量推移（2018-19年度半期平均からの増加率）






COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

各製剤の使用量推移 (2018-19年度半期平均からの増加率)





COVID-19が当院の輸血部門に及ぼした影響

- 当院では、2020年度上半期から2021年度上半期までにおいては、コロナ前よりも検体検査管理加算件数は10%以上減少していたが、輸血管理量算定件数は変化が小さかった。輸血件数、輸血準備手術件数はコロナ前より増加していた。輸血用血液製剤の使用量はコロナ前よりも増えていたが、アルブミン製剤と自己血の投与は減少していた。
- 輸血部門においては、感染拡大時においても業務量が減少しない以上、万が一感染者が発生した際に備えた交代勤務制の導入などのワークスタイル変更は困難であった。
- 感染拡大による子育て環境への影響など、感染リスク以外の不安要素も増加し、スタッフの心身の健康維持に向けた特段の配慮が必要と考えられた。



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の安定供給

- 献血者減少が安定供給に悪影響？

事務連絡
令和2年3月3日

各都道府県業務主管課 御中

厚生労働省医薬・生活衛生局血液対策課

新型コロナウイルス感染症の発生に係る献血血液の
安定的な確保のための対応について（依頼）

献血の推進につきましては、平素より格別の御尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今般の新型コロナウイルス感染症の発生を受け、感染拡大を防止する観点から、各種イベントの中止、企業等におけるテレワーク・時差出勤の実施など、様々な対策が実施されているところです。これらの影響により、企業等で実施予定の献血が中止になるなど、献血血液の確保に影響が生じています。

現時点では、血液製剤の安定供給に支障は来していませんが、今後、更に献血者が減少した場合、有効期限が短い血小板製剤や赤血球製剤について、医療機関への供給に支障を来す可能性があります。

血液は長期保存ができないことから、現在、日本赤十字社では、日々安定的に献血血液を確保するための対策を実施しています。つきましては、貴課におかれましても、各都道府県赤十字血液センターと連携を図り、地域の実情を踏まえ、下記についてご協力いただきますよう、お願いいたします。

なお、日本赤十字社では、献血の受入に当たり、業務に従事する職員の体温測定を行うなど健康管理の徹底、献血予約の推進、献血会場の来所者に体温測定や手指消毒を依頼するなど、感染防止対策を講じていることを申し添えます。

記

1 日本赤十字社ホームページに掲載中の新型コロナウイルス感染症の発生に係る献血の協力依頼について、貴管下市町村及び関係団体等に周知するとともに、献血への協力を依頼すること
(日本赤十字社ホームページ: <http://www.jrc.or.jp/activity/blood/>)

COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の安定供給

- 献血者減少が安定供給に悪影響？
- 関連文書、報道記事などを院内に通知
- 適正使用の更なる協力を継続して院内に呼びかける

日本赤十字社 東京都赤十字血液センター
重要なお知らせ

緊急事態宣言下においても、献血は不要不急の外出にはあたりません

2021年4月27日 重要なお知らせ

都内においては、未だに続くコロナ禍で献血協力者が減少しています。

献血は不要不急の外出にはあたりません

【関東甲信越地域の最新状況はこちらです】


みなさまの変わらぬ献血へのご協力をお願いいたします。



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の安定供給

- 献血者減少が安定供給に悪影響？
- 関連文書、報道記事などを院内に通知
- 適正使用の更なる協力を継続して院内に呼びかける



日本赤十字社
人間を救うのは、人間だ。

【令和3年5月14日から適用開始】新型コロナウイルスワクチンを接種された方の献血受入れについて

2021年4月28日

平素より献血にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスのワクチンを接種された方の献血の受入基準については、以下のとおり決定されましたので、お知らせいたします。

なお、当基準の適用開始は令和3年5月14日からとなります。

mRNAワクチンを含むRNAワクチン接種後、48時間は献血不可

※現在、国内で承認されているmRNAワクチンは、ファイザー社製のもので、

1回目、2回目の接種ともに、上記期間を経過すれば献血にご協力いただけます。

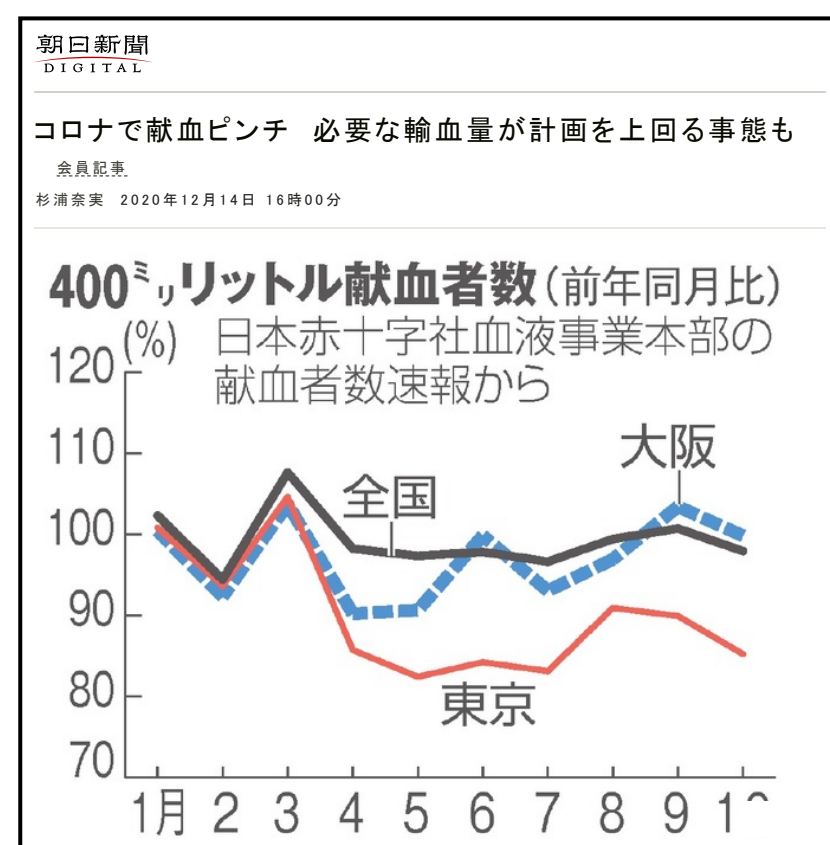
また、新型コロナウイルスのRNAワクチン以外のワクチン接種後の受入基準については、国において継続して検討されていることから、基準が示されるまでの間、献血はご遠慮いただくこととしております。基準が決定しましたら、あらためてホームページ等でお知らせいたしますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の安定供給

- 医療現場の立場から、献血協力を呼びかける



2020.12.13 大阪医科大学
朝日新聞に輸血室の河野武弘室長が掲載されました

朝日新聞 朝刊 33面
輸血室の河野武弘室長が、献血がコロナ禍で減っている現状と、献血の大切さについてコメントされています



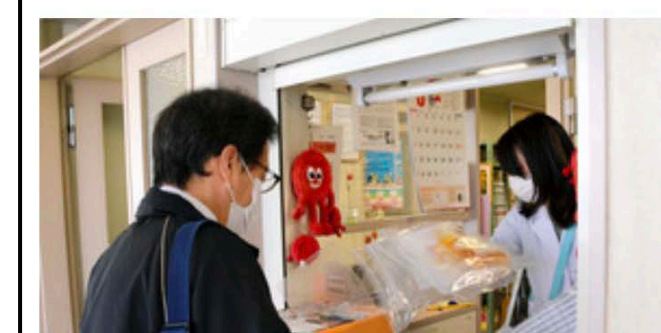
2021.03.02 大阪医科大学
FM大阪「吉本ラジオ高校〜らじこー」で輸血室の河野武弘室長がお話をされます

2021年3月22日(月)、29日(月)午後9時37分～午後9時42分
FM大阪「吉本ラジオ高校〜らじこー」で輸血室の河野武弘室長が、輸血用血液製剤がどのような形で患者さんの治療に活用され、助けとなっているかについてお話をされます。

朝日新聞 DIGITAL

「血液が少ない」医療現場の不安 年度初め、減る献血者

会員記事 新型コロナウイルス
杉浦奈実 2021年4月17日 7時00分



大阪での新型コロナウイルス感染拡大で、献血関係者が気をもんでいる。「第4波」の影響に加え、年度初めは例年、バスや特設会場での献血の協力を得づらい季節だからだ。医師らは献血への協力を呼びかけている。

朝日新聞に輸血室の河野武弘室長が掲載されました

2021.04.16 大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

朝日新聞 朝刊 11面

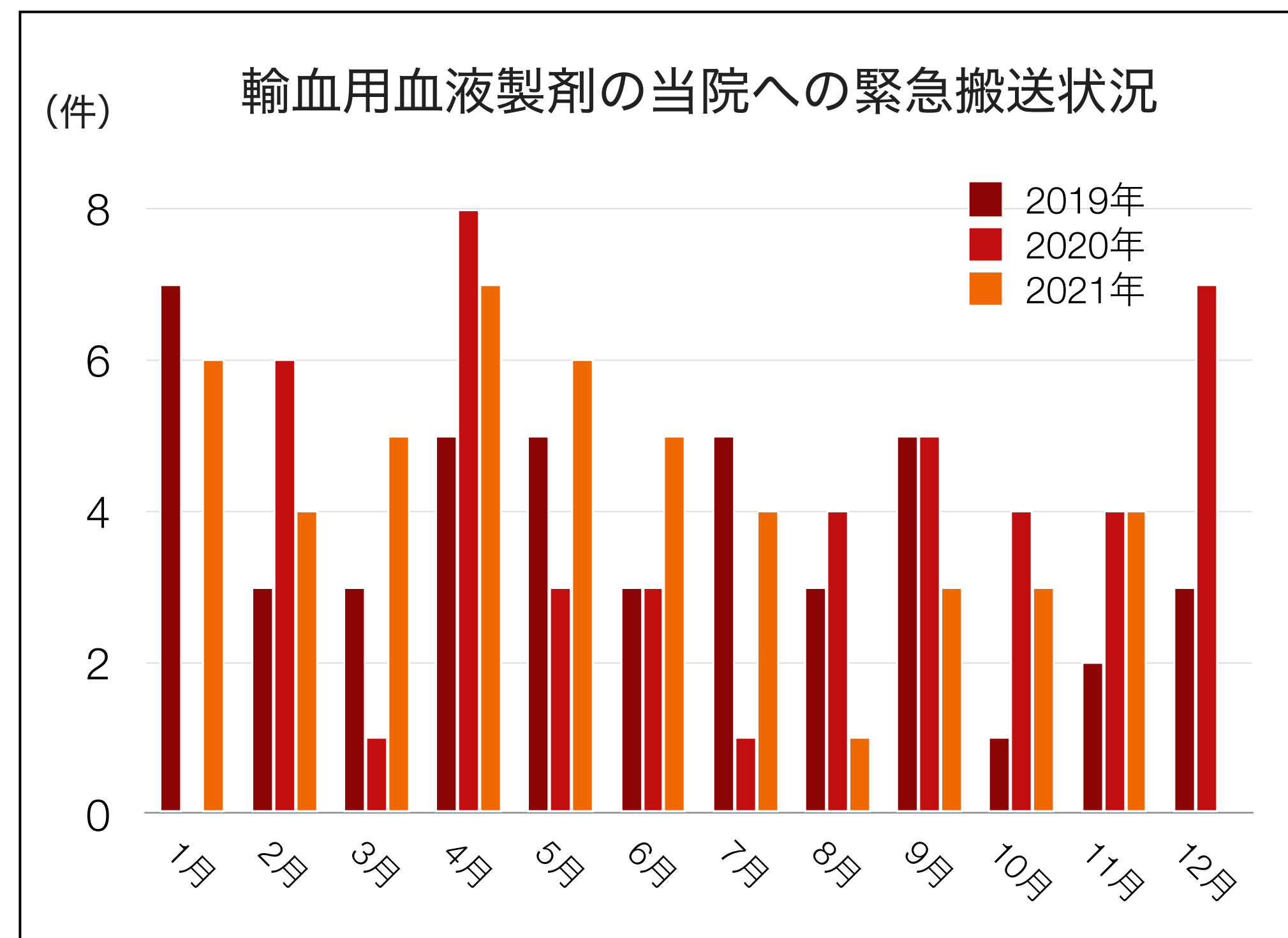
輸血室の河野武弘室長が、コロナ禍が献血に与える影響についてコメントされています。



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の安定供給

- 当院への製剤供給遅延等は発生せず
- 当院への緊急搬送は年間48、52、39件
(2021年11月まで、2020年、2019年)
- 緊急搬送の平均所要時間は35、37、33分
(2021年11月まで、2020年、2019年)
- 感染拡大下でも安定供給は維持して頂いている



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の適正使用（輸血管理体制）

- 院内各種会議が会場→紙上、リモート開催

- 情報共有、周知徹底の効果が減少？

輸血療法委員会の6/12が紙上開催に

- 輸血療法委員会の工夫

定例報告内容を維持

意見/報告書類の提出を必須に

→100%回収

- 輸血監査は、診療録監査をメインに

令和2年12月8日

2020年度・第9回（第226回）
輸血療法委員会

【議題】

- 1) 輸血後感染症検査の運用変更とそれに伴う「輸血マニュアル第6版」の差し替えについて
- 2) 無輸血治療希望患者への対応に関する現状について

【報告事項】

- 3) 診療科別製剤使用状況
- 4) 副作用発生状況
- 5) 輸血用血液製剤の廃棄状況
- 6) 手術症例における血液準備・使用量について
- 7) 大量輸血実施状況
- 8) 特定生物由来用状況製剤の使用状況
- 9) 輸血に関する院内監査
 - ii. 診療録監査
 - ①輸血開始認証の適正実施状況
 - ②実施直前の製剤払い受け遵守状況
 - ③輸血・アルブミン投与記録の完成状況
- 10) 血液製剤の査定状況
- 11) 自己血輸血の実施状況
 - i. 貯血式自己血輸血 ii. 回収式自己血輸血 iii. 希釈式自己血輸血
- 12) 無輸血希望患者対応状況
- 13) 年末年始の輸血室業務について

輸血療法委員会出席意見書

令和2年度 第9回 開催の輸血療法委員会配布資料を配布します。貴部署内でのご周知をお願い申し上げます。下記の周知事項・アンケートに回答の上、ご意見ご感想を記入いただき12月22日（金）までに輸血室へ提出していただきますようお願い致します。この意見書の提出を以て委員会への出席とさせていただきますのでご了承くださいますようお願い致します。

所属： 氏名：

【輸血後感染症検査の運用変更について】

輸血後感染症検査の運用が変更されること。
12月14日の医務会・スタッフミーティング 会にて確認/周知しました。

【無輸血治療希望者対応に関する再周知事項】

「無輸血治療を希望する患者(エホバの証人等)に係る治療対応マニュアル」が、外来・病棟等、各部署に設置されており、その設置場所が認識されていること。
12月14日の医務会・スタッフミーティング 会にて確認/周知しました。

同マニュアルの内容について、各部署で年に一度は、再確認されていること。
12月14日の医務会・スタッフミーティング 会にて確認/周知しました。

無輸血治療の希望が認識され次第、可及的速やかに対応書類が作成され、輸血室に提出することが認識されていること。
12月14日の医務会・スタッフミーティング 会にて確認/周知しました。

【無輸血治療希望の早期把握に向けた取り組みに関するアンケート】
委員の皆さまの各部署にて検討いただき以下に記入してください。

電子カルテより検索し、メールで送付予定です。この点も、よく連絡しやすくなります。

【その他の意見および感想】 有 *有の場合下記項目についてご記入下さい。 無

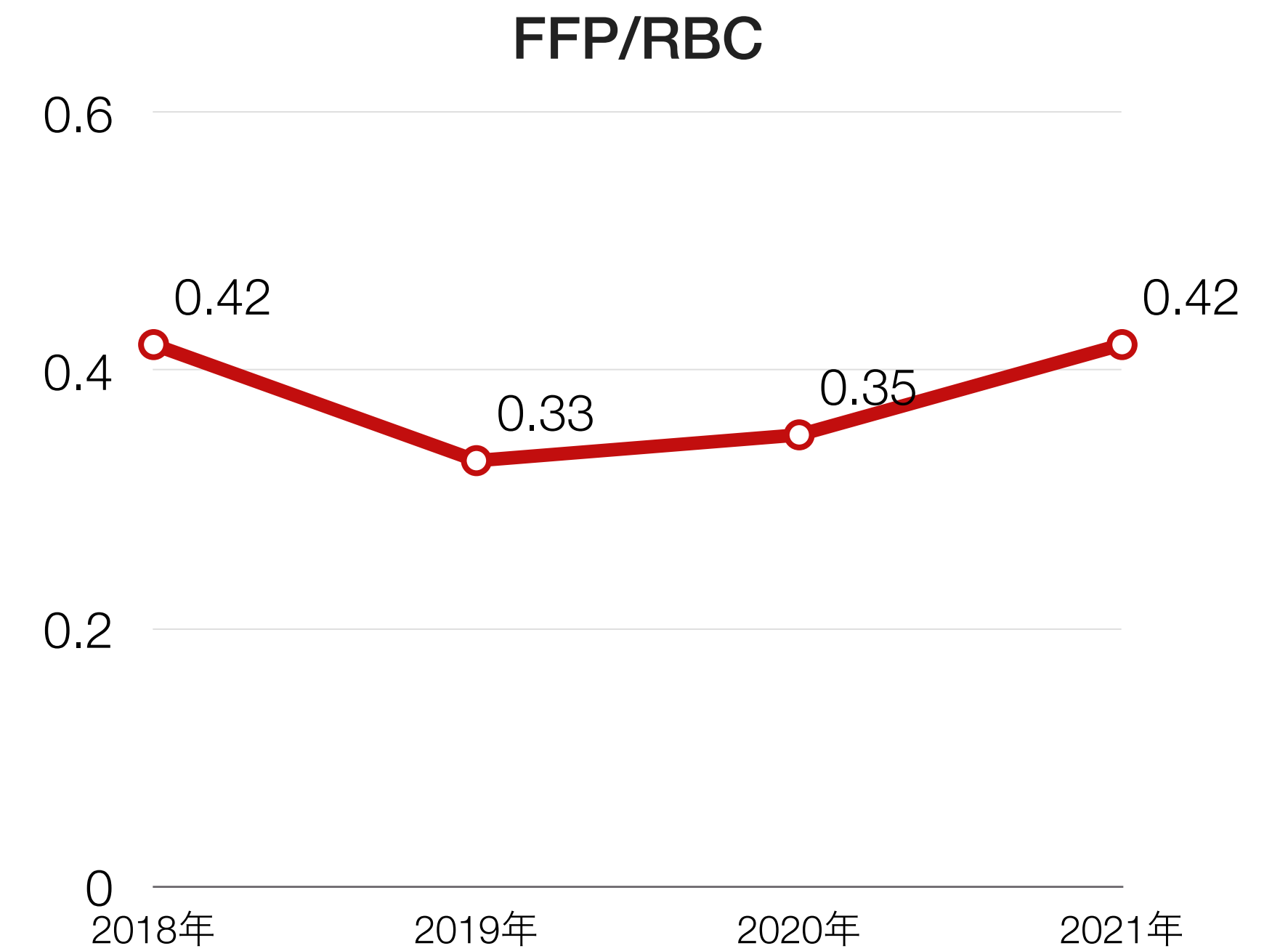
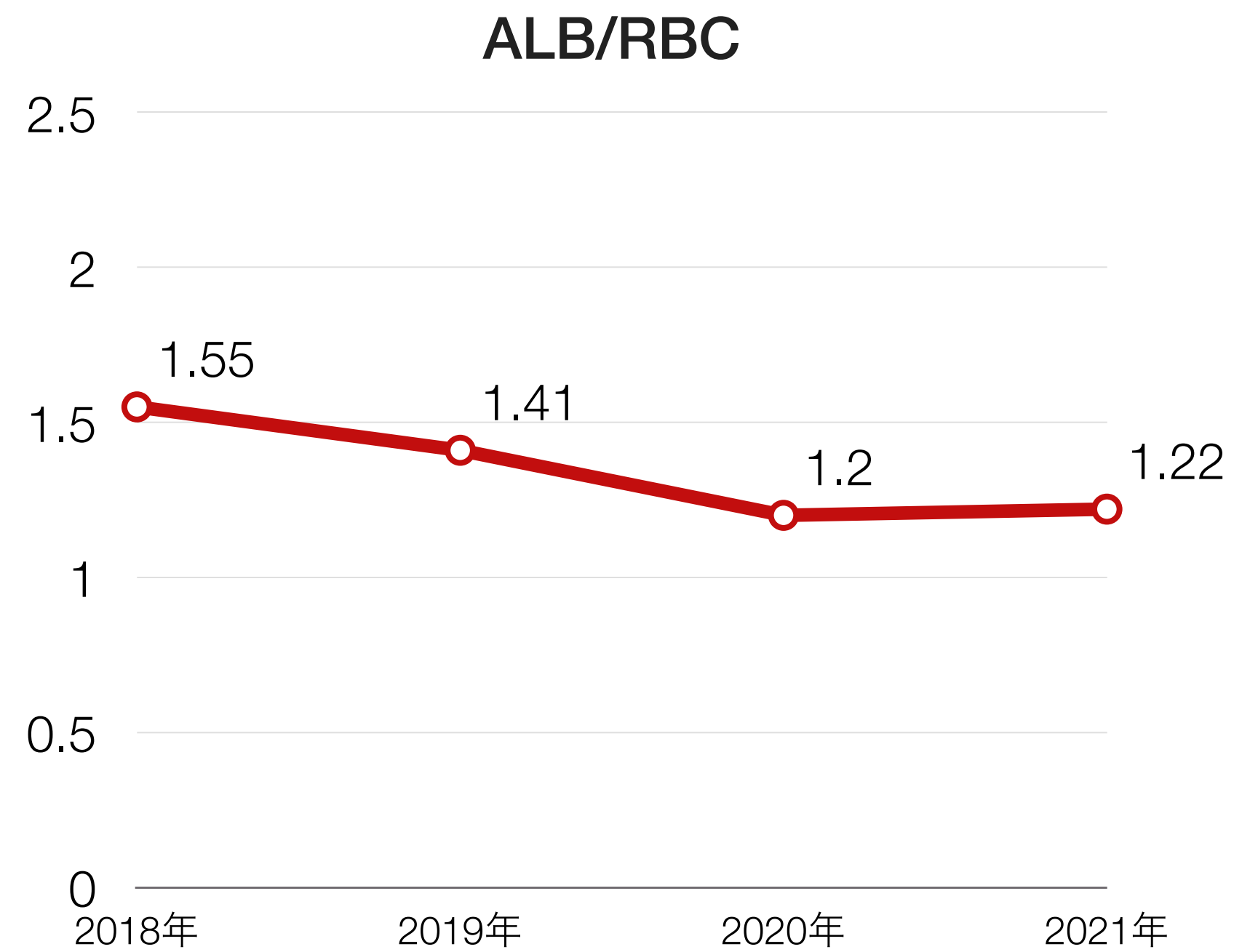
項目	ご意見・ご感想

令和2年12月8日
輸血室
病棟6号館2階 内線2272



COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

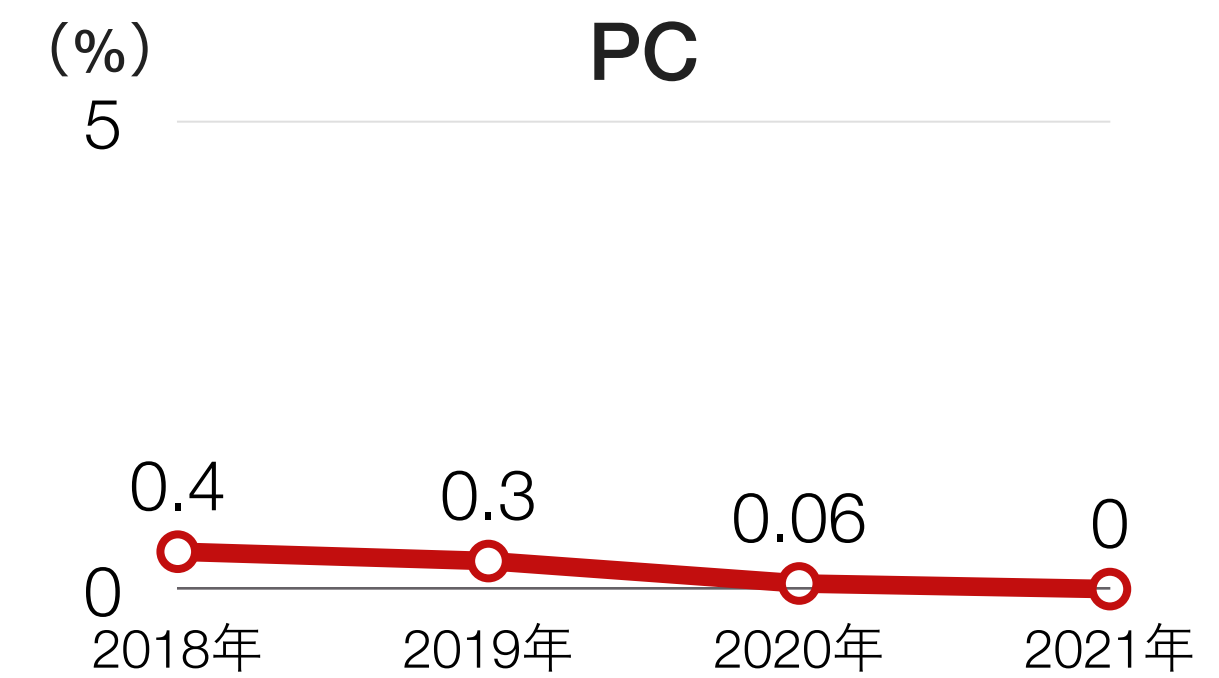
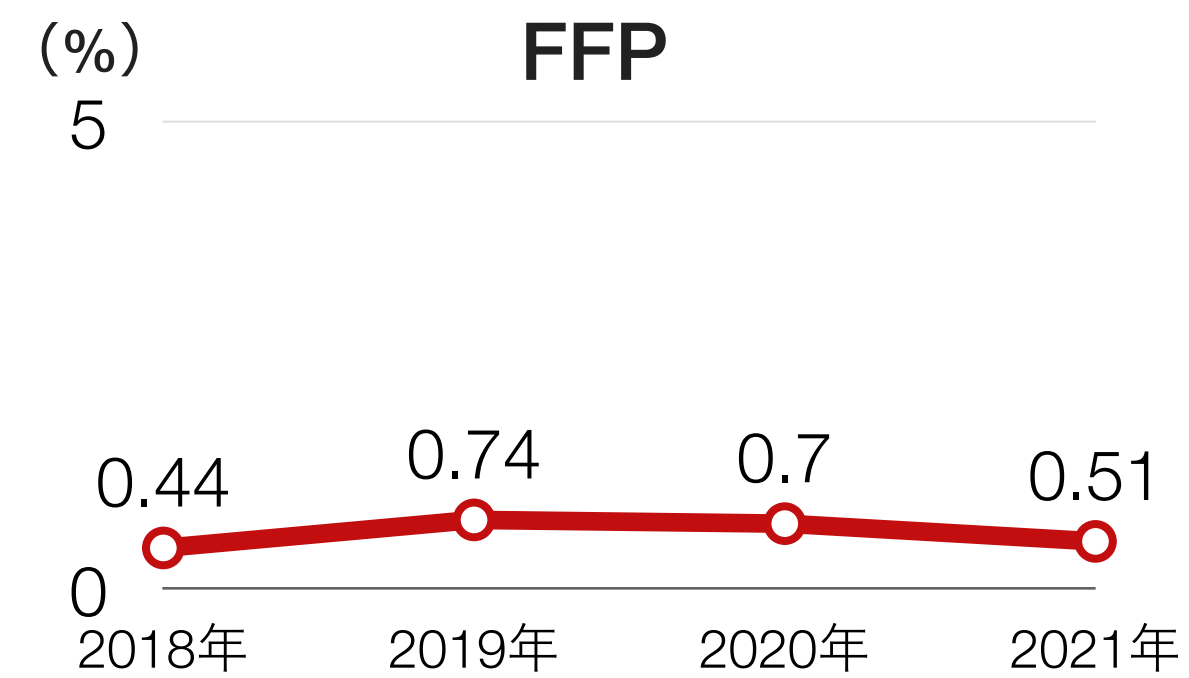
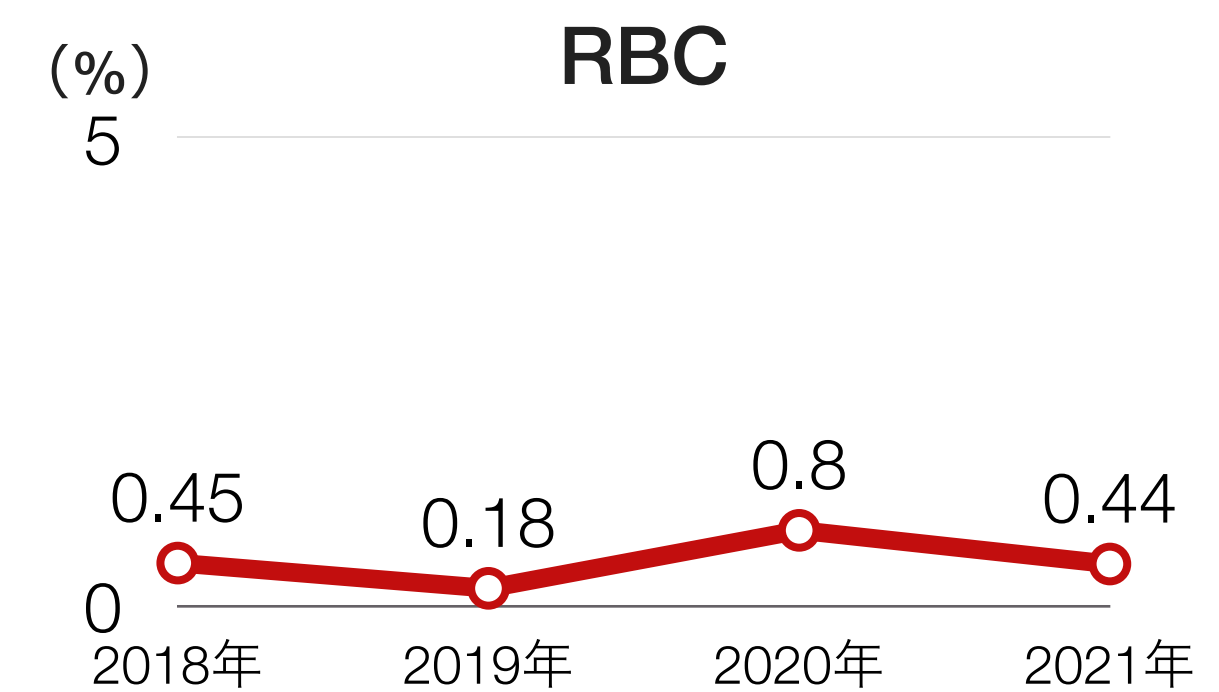
～製剤の適正使用（適正使用加算算定条件）





COVID-19が当院の輸血医療に及ぼした影響

～製剤の適正使用（廃棄率）





COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～「新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施」手順書の作成

- 2020.4.1 大阪府よりCOVID-19重症患者の受入れ病床確保要請が入る
- 2020.4.7 ICUのCOVID-19重症患者専用化開始
- 2020.4.10 77病棟COVID-19疑い患者、軽症者専用化開始
- 2020.5.1 ICU10床、77病棟43床の受入れ整備完了 大阪府に回答

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施

大阪医科大学病院

【目次】

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施 (ICU内規) p.1

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(救急外来内規) p.5

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(一般病棟内規) p.7

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(妊産褥婦対応内規) p.9

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(手術室内規) p.10

COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～「新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施」手順書の作成

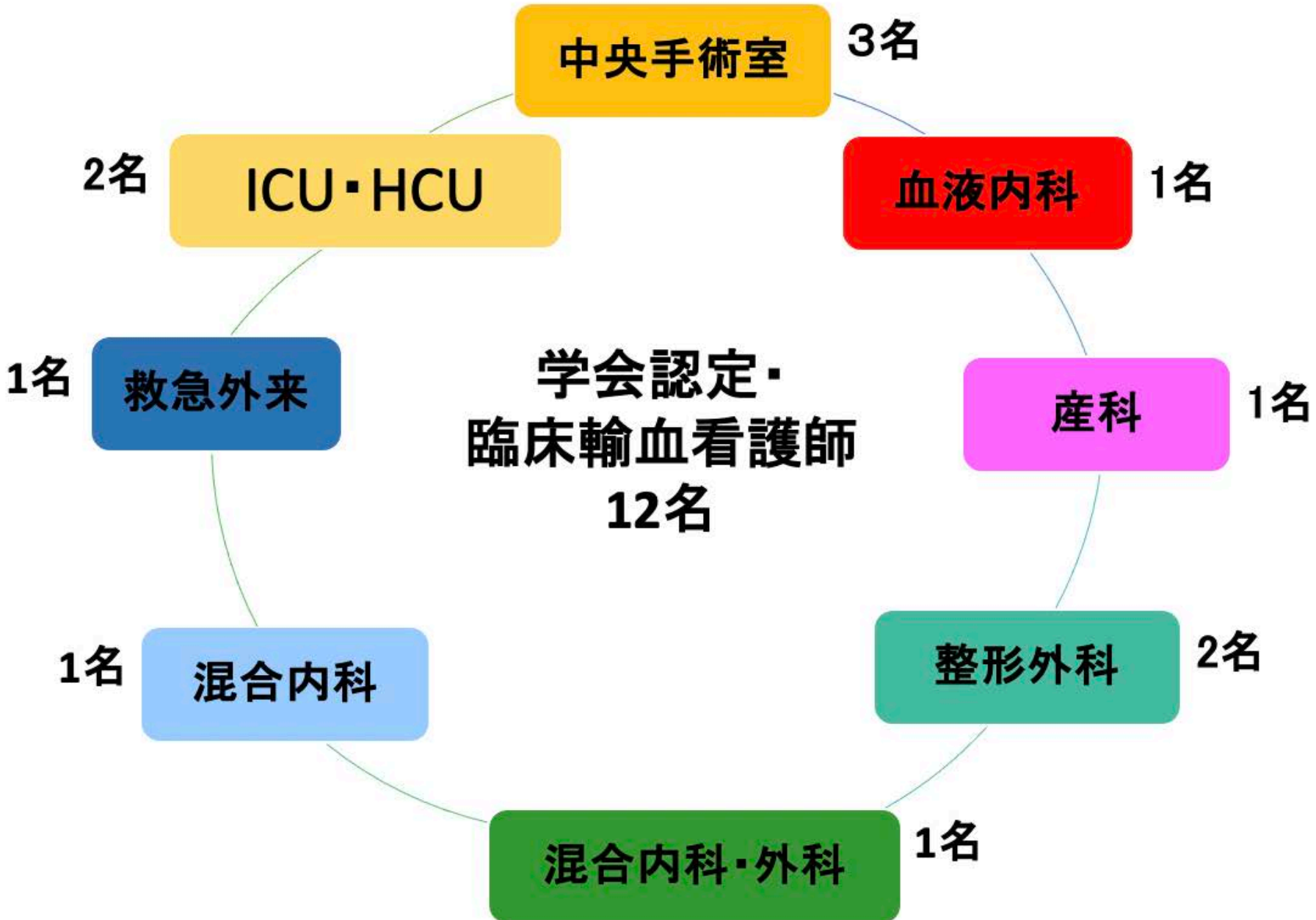
- 2020.4.1 大阪府よりCOVID-19重症患者の受入れ病床確保要請が入る
- 2020.4.7 ICUのCOVID-19重症患者専用化開始
- 2020.4.10 77病棟COVID-19疑い患者、軽症者専用化開始
- 2020.5.1 ICU10床、77病棟43床の受入れ整備完了 大阪府に回答





COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～「新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施」手順書の作成

- 2020.5 輸血看護師定例会にてCOVID-19関連情報を共有
- 2020.5-7 COVID-19患者への輸血実施の可能性のある部署における輸血実施手順書の作成
- ICU、手術室、救急外来、周産期センター、一般病棟の輸血看護師と輸血部門が協同で作成





COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～「新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施」内規集の作成

- 2020.5 輸血看護師定例会にてCOVID-19関連情報を共有
- 2020.5-7 COVID-19患者への輸血実施の可能性のある部署における輸血実施手順書の作成
- ICU、手術室、救急外来、周産期センター、一般病棟の輸血看護師と輸血部門が協同で作成
- 2020.7.16 感染対策会議にて手順書が承認される
- 2020.8.9 COVID-19重症患者への初のALB投与

新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施

大阪医科大学病院

【目次】

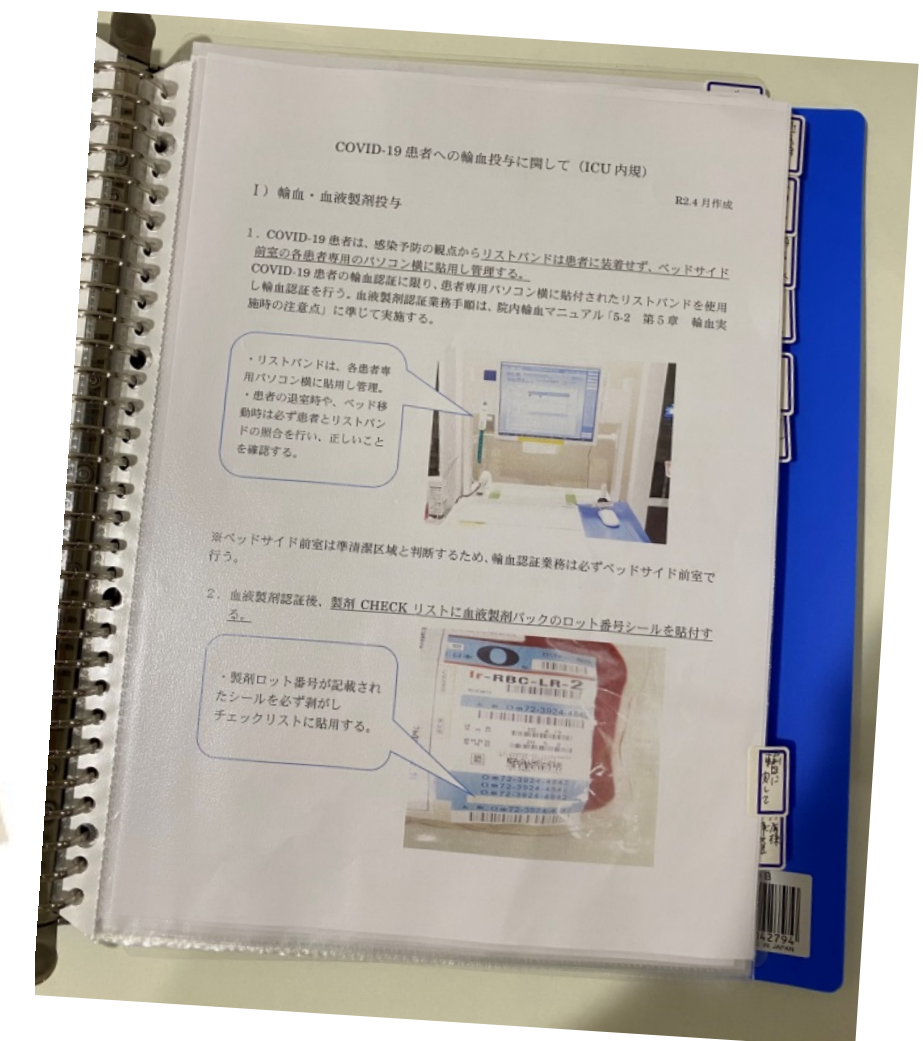
- 新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施 (ICU 内規) p.1
- 新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(救急外来内規) p.5
- 新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(一般病棟内規) p.7
- 新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(妊産褥婦対応内規) p.9
- 新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施(手術室内規) p.10



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

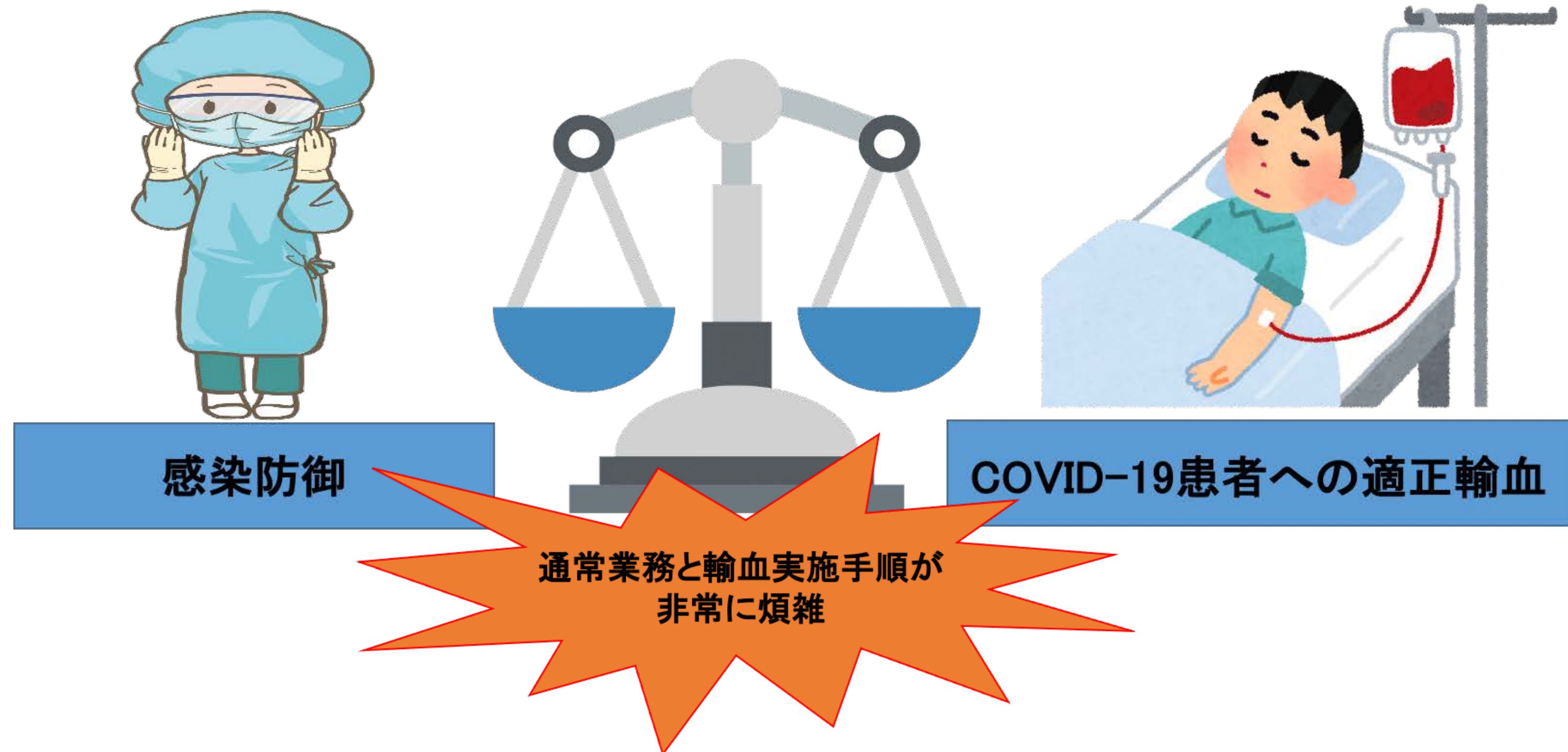
～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与

- 院内感染対策室の指示を受けてICU内のゾーニングを行い、各ゾーンにおける血液製剤の取り扱いや患者照合手順等を、輸血室と協同で通常輸血マニュアルから一部改変し、COVID輸血手順書を作成した。





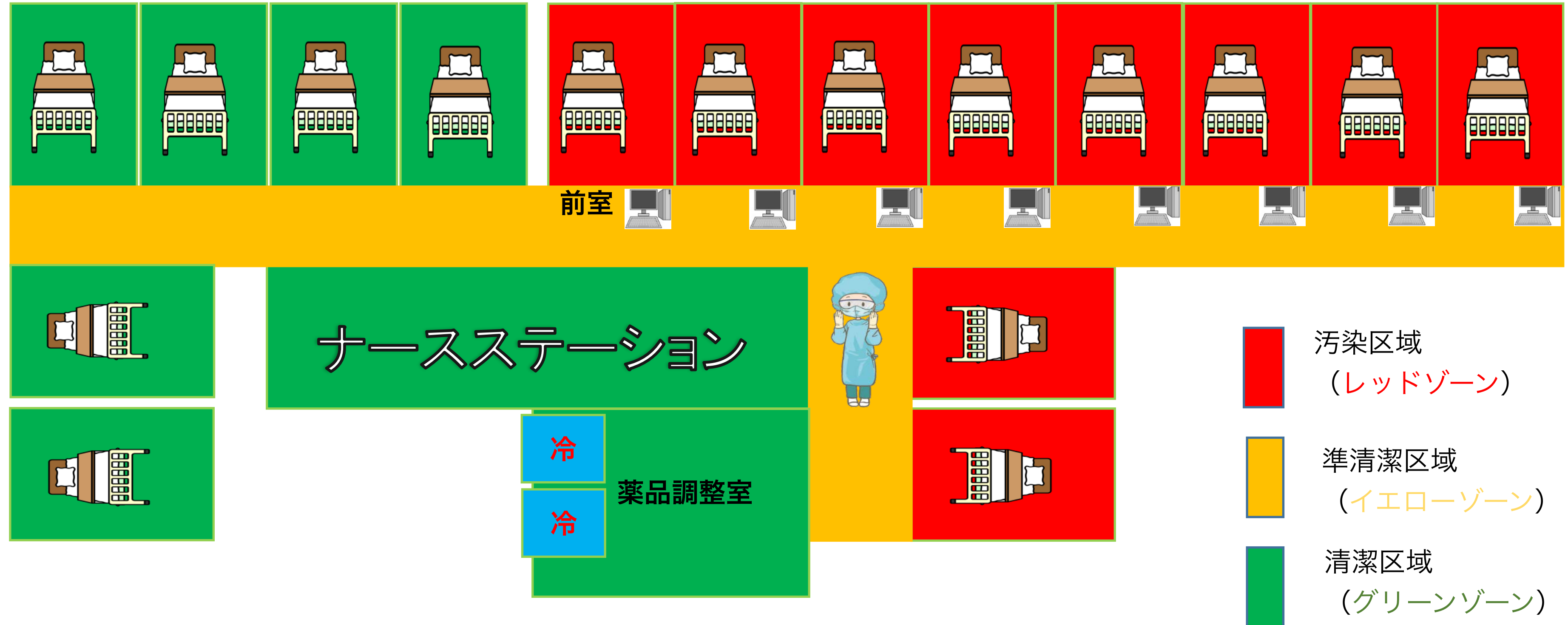
COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～「新型コロナウイルス陽性患者への輸血実施」手順書の作成





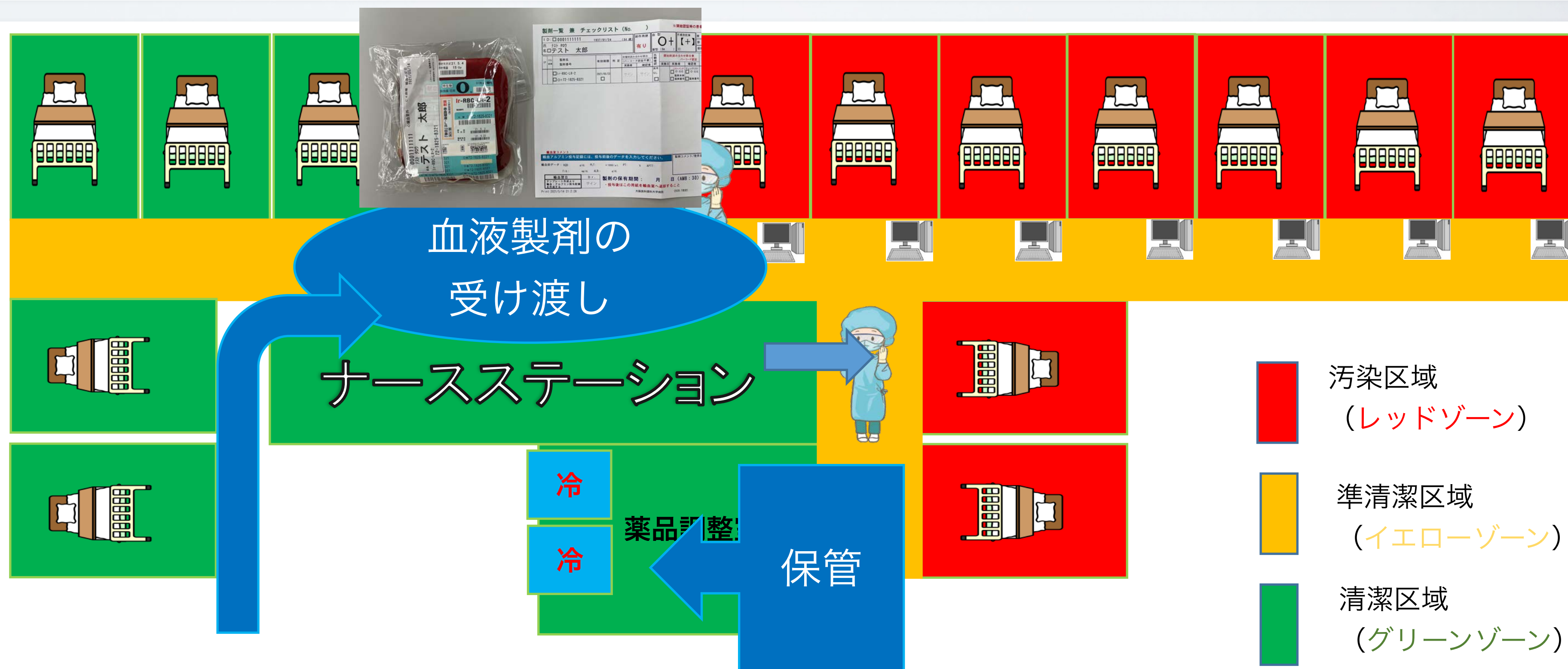
COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（ゾーニング）



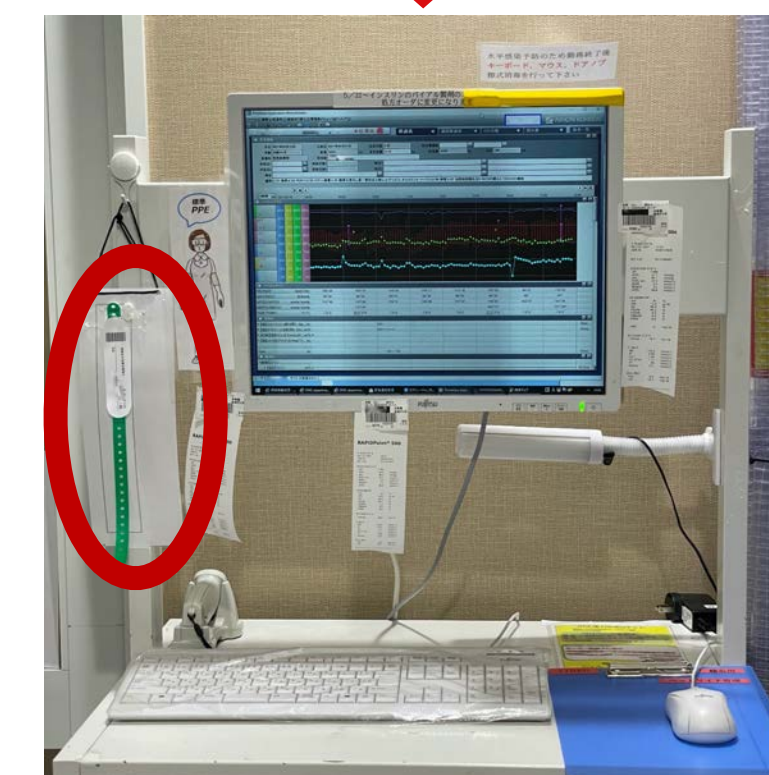
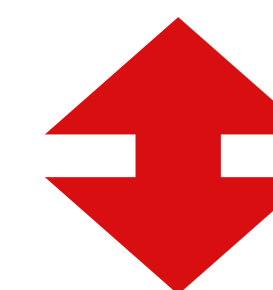
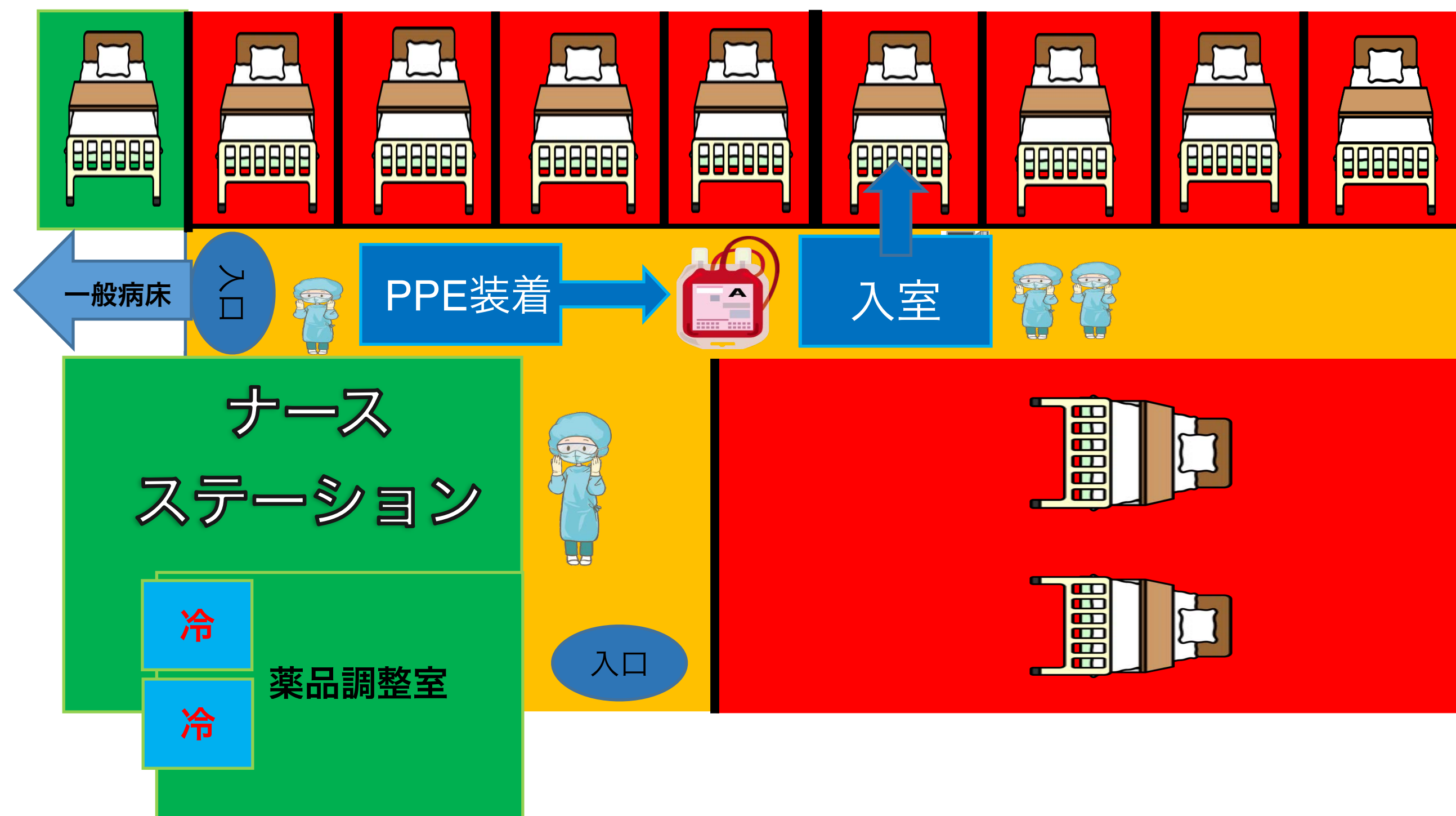
COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（製剤と患者の認証）





COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（製剤と患者の認証）



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（認証-投与-記録）

- 輸血製剤をグリーンゾーンで受け取る。
- イエローゾーンに持ち込み患者専用前室パソコンで製剤患者認証を行う。（輸血投与者はPPE装着）
- 投与者は製剤と共にレッドゾーンに入室する。（輸血伝票-チェックリストはイエローゾーンに）
- 投与直前にネームプレートで患者氏名を確認した後、輸血を開始する。
- 患者状態を観察し、モニターでバイタルサインを確認する。
- 患者に異常がないことを確認後、レッドゾーン内でPPEを着脱し、速やかに退室する。
- イエローゾーンの電子カルテ端末に、輸血副作用の有無を記録する。



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（終了-廃棄）

- イエローゾーンでPPEを装着後、レッドゾーンに入室する。
- 抜針～製剤を患者から取り外す。
- 製剤をレッドゾーン内で破棄する。（針廃棄BOXはレッドゾーン内に設置）
- PPEをレッドゾーン内で着脱し、速やかに退室する
- 血液製剤の終了認証は、窓越しで実施。



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～ICUにおける輸血実施・アルブミン投与（診療録監査）

- COVID-19患者 全87名
(男性：63名 女性：24名)

- 輸血用血液製剤投与34件の診療録を監査

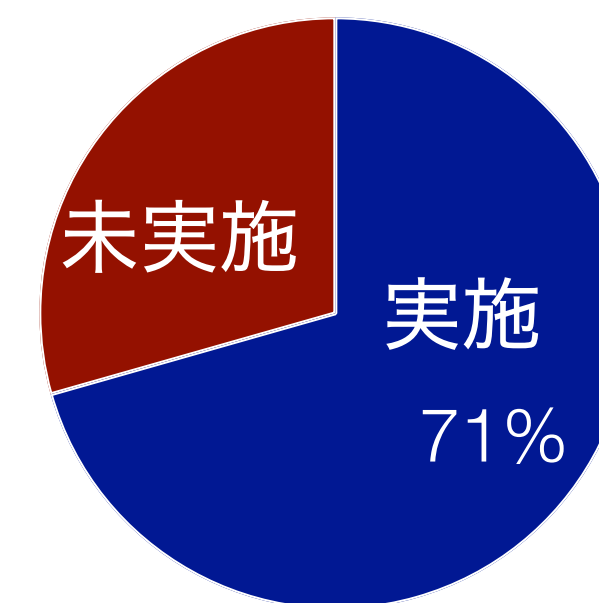
- 輸血実施・アルブミン投与 全33名

血液製剤名	投与本数
RBC	29
FFP	1
PC	4
アルブミン	87

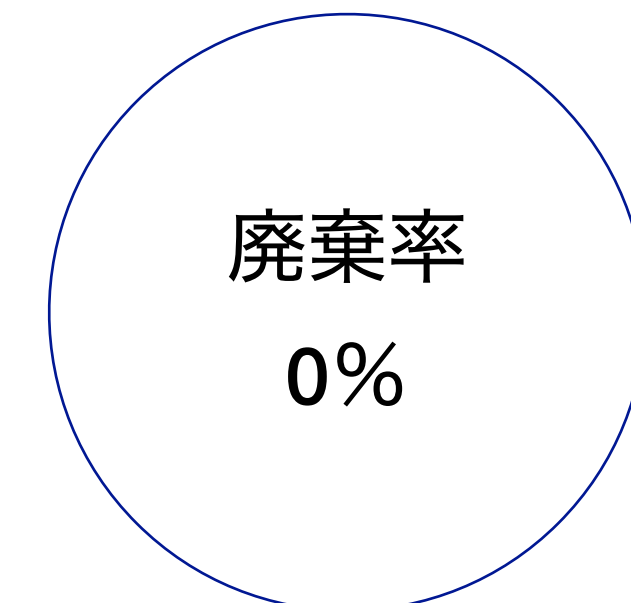
(令和2年4月～3年3月末)



輸血認証



副作用記録



製剤廃棄



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～コロナ第4波における取り組み

- 2021.4月月末 大阪府下のCOVID-19患者が急増し、重症患者の受入病床がオーバーフロー
- 2021.5.1-9 大阪府からの「新型コロナ重症患者病床の臨時緊急確保要請」に対応し、MFICUをICU化（4床）してCOVID-19患者臨時受入病床とした。
- COVID-19患者臨時受入病床には、輸血看護師2名が配置された
- 作成していたICU版と妊産褥婦対応版の輸血実施手順書を輸血部門と輸血看護師で再検討し、内容をブラッシュアップして対応





COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み ～経験したインシデント

- 手術室にてECMO装着を行ったCOVID-19症例で、RBC4単位が廃棄になった。
- ICUから手術室への患者移動時に、RBCを患者と共にレッドゾーン内で移動、その後RBCは未使用のまま廃棄に至った。
- RBCはグリーンゾーン内で移動し、手術室内の製剤専用保冷庫にて投与直前まで保管されるべきであった。
- 手術室の担当看護師は、輸血手順書の存在は知っており、手術室内に持ち込んだ製剤は使用しなくても廃棄になることも把握していた。
- 原因は、ICUのイエローゾーンにある血液製剤をレッドゾーンだと思い込んだためであった。また、ICU看護師との連携、コミュニケーションの不備もあった。
- 手術室とICUの輸血看護師、及び輸血責任医師は、両部署の輸血実施手順書の内容を見直し、一部改定を行った。
- 手順書の内容を部署内スタッフに周知する機会を、過酷な勤務が続く中、如何に確保するのかが問題である。



COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～COVID-19妊産褥婦専門ICUでの輸血実施

- 2021.8.19 新型コロナウイルス陽性妊婦が自宅で出産した後、出生した児が新生児死亡した事例が報道される。
- 2021.8.25 分娩室を有するCOVID-19妊産褥婦専門ICUを開設。（10月31日までに妊婦29名が入院し、当院で10例分娩）
- 産後弛緩出血によって輸血を必要とする症例を経験し、輸血看護師と輸血部門が協同で輸血実施体制を調整した。



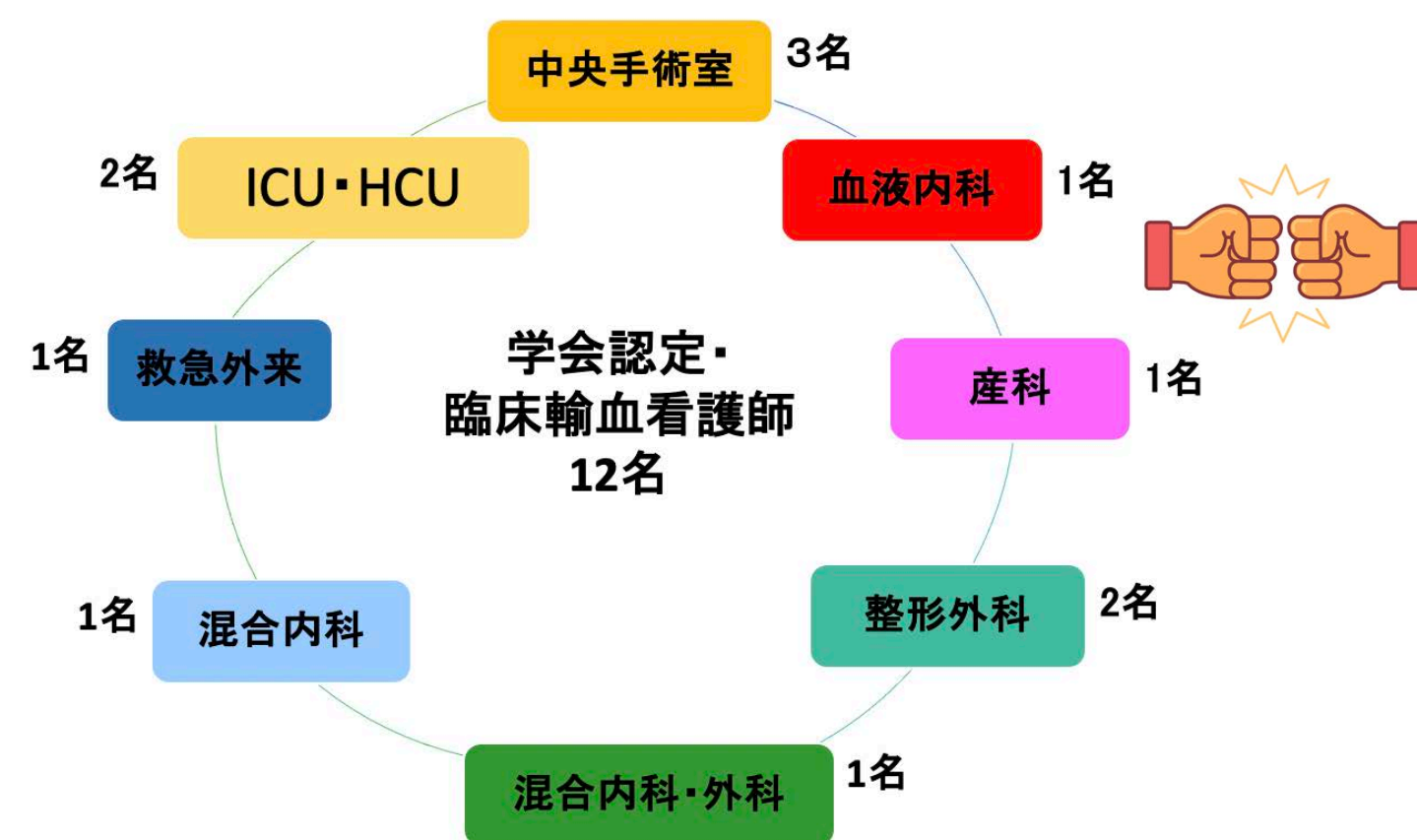


COVID-19感染拡大下での当院輸血チームの取り組み

～COVID-19妊産褥婦専門ICUでの輸血実施

- 感染拡大第一波の時に産科病棟向けに作成されていたマニュアルに即して、輸血を実施。
- 翌日に病棟所属の輸血看護師と輸血部門によって実施過程を振り返る。
- 病棟内での感染拡大や製剤廃棄などのインシデントは発生せず。
- 患者のベッドサイドに持ち込まれた輸血伝票が廃棄されないままグリーンゾーン内に戻されるという問題点が明らかになった。
- 輸血実施過程とゾーニングなどの現状を再評価し、感染制御と適正輸血の両方の観点から既存の輸血マニュアルを改定する。
- 輸血看護師は、各部署における輸血実施現場の状況を的確に把握できるという特性を活かして、輸血部門との多職種連携にて取り組むことにより、COVID-19感染拡大下においても、各時期の状況に即して、迅速に輸血実施体制の構築、評価、改定を行い、PDCAサイクルを回すことができている。

COVID-19感染拡大下での輸血責任医師の取り組み ～多職種横断部門との連携



輸血部門
輸血責任医師 輸血担当技師

輸血療法委員会

感染制御部門

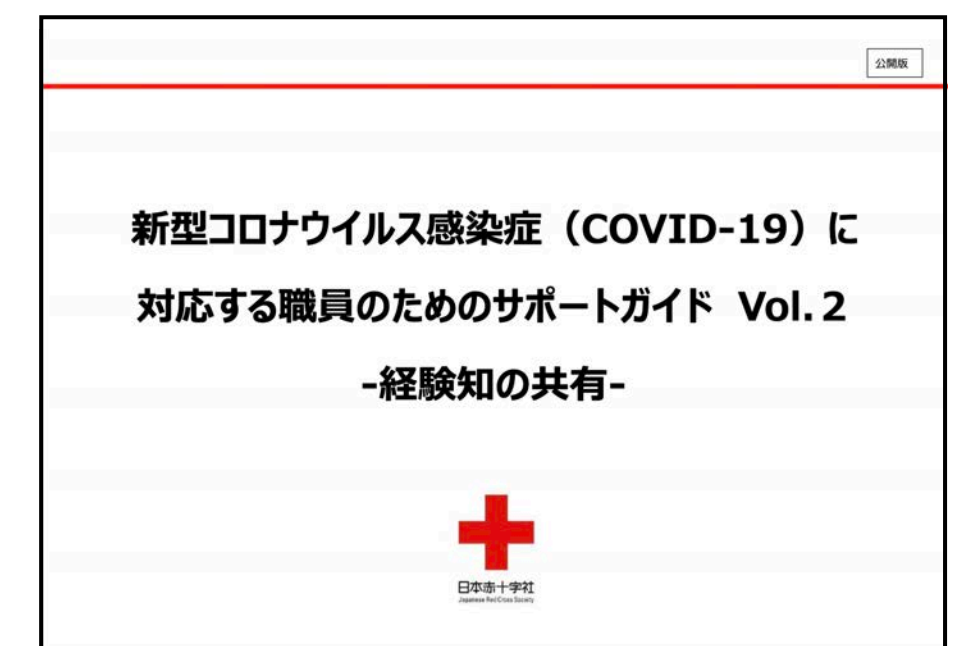
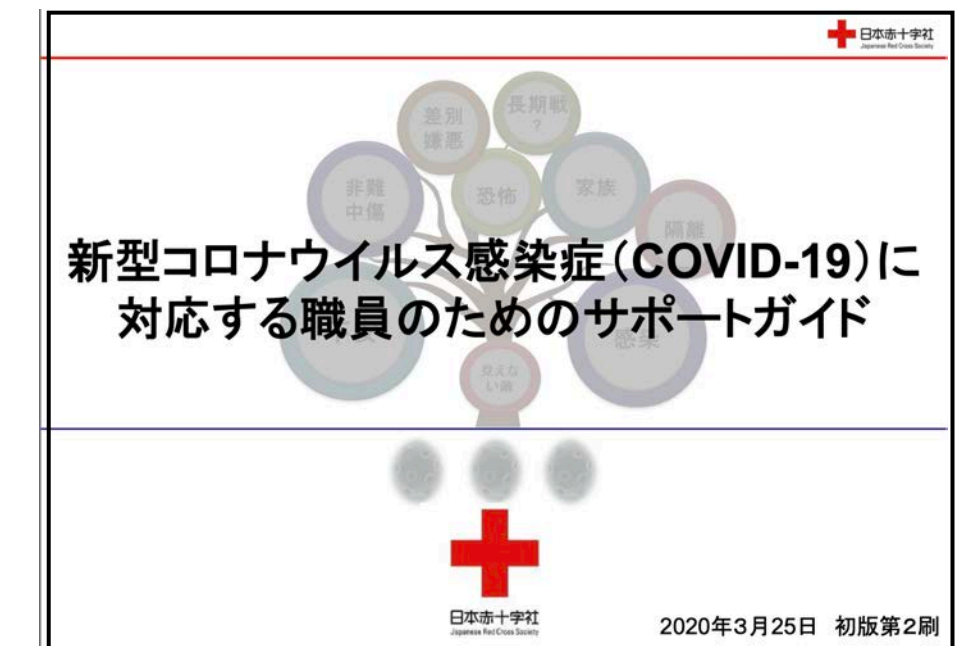
医療安全部門

心のケアチーム



COVID-19感染拡大下での輸血責任医師の取り組み ～心のケア

- 日本赤十字社によるCOVID-19流行下で活動する職員が受ける心理・社会的影響を軽減し、職員・家族の尊厳と健康を守ることを目的とするサポートガイド
- 見えないこと、治療法が確立されていないことで感じる強い「不安や恐れ」（心理的感染症）
- 不安や恐怖が生み出す「嫌悪・差別・偏見」（社会的感染症）





COVID-19感染拡大下での輸血責任医師の取り組み ～心のケア

- 当院COVID-19 心のケアチームによる活動

いつもありがとう

長く続く感染症との闘いに、
心から感謝いたします。

身体も心も疲れたときこそ、睡眠や食事
など規則正しい生活を心掛け、そして、親し
い人と話してください。
私たちこころのケアチームの存在もたまには
思い出し、何かあればいつでも気軽にご相談
ください。

大阪医科大学病院
COVID-19 こころのケアチーム

感染症と闘ってくれている皆さま
こころからありがとう

皆さまに、感謝とエールを。
少しでも力になればと思っています。

大阪医科大学病院
COVID-19 こころのケアチーム



COVID-19感染拡大下での輸血責任医師の取り組み ～心のケア

- 輸血チームのリーダーとして
輸血責任医師 + ICD + 産業医
心理的安全性を高める立場を目指して

2020.3
4

新型コロナウイルスの影響による
献血協力者の
深刻な減少が
続いています

メールで
輸血看護師定例会

輸血看護師の皆さま、お疲れさまです！

COVID-19の影響で定例会が中止になりました。
皆さまとの月一回の意見交換の機会が無くなってしまい、寂しい限りですので、
メールにて情報発信します。
お時間ある時に目を通していただければ、(返信あればさらに)嬉しいです。
皆さまとは、安全で適正な輸血の実現という同じ目標を目指して、いつも繋がっ
ていると確信しています。何かありましたら、遠慮無く連絡下さいませ。
来月には、輸血室で皆さんの笑顔と再会できますように！

年末年始の輸血当直をご担当いただき、
本当にありがとうございます。

皆さまのおかげで当院は、今年の年末年始も、
何時でも輸血を患者さんに届けることができます。



2020年はCOVID-19の感染拡大という想定外の影響を受けていますが、
輸血は不要不急の医療行為ではなく、どのような状況下でも、安定して、
患者さんに提供されることが望まれます。
献血者を第一走者とする命のリレーは、献血ルーム、赤十字血液センターか
ら当院に引き継がれ、輸血当直の皆さまを介して、最終ランナーである医
師、看護師の手にわたり、患者さんに届けられます。

年末年始の輸血当直リレーでタスキ(輸血)を繋ぐ皆さま、
どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

2020年12月28日
輸血室室長 河野武弘



Take Home Message

- COVID-19の感染拡大の長期化において、輸血関連業務は不要不急のものではなく、常に安定確実な業務遂行が必要とされる。
- 輸血部門と各部署に配置された学会認定・臨床輸血看護師がチームを形成し、COVID-19患者への製剤投与マニュアルを作成することは、有益な取り組みである。
- 輸血責任医師は、院内輸血チームのリーダーとして、先の見えない状況下での心理的安全性を高めるようなリーダーシップを発揮したい。

COVID-19の感染拡大が院内輸血医療にもたらしたのは、多職種輸血チームの強固な団結である